Gakken Mo

魔法(まほう)つかいプリキュア!

MAHO GIRLS PRECURE!

オフィシャルコンプリートブック

ワクワクもんだぁ!

製作スタッフ&出演キャスト

直筆色紙

秘蔵イラスト&インタビュー満載

って言いました!?

キュアップ・ラパパ

伝説の魔法つかい(プリキュア)たちの活躍を見せて!

原画／宮本絵美子

オフィシャルコンプリートブック

Contents

スタッフ&キャストおつかれさま色紙

放送終了を記念して、製作スタッフチームのみなさんと、
プリキュア&モフルンのキャストチームが
色紙に寄せ書きをしてくれました。
貴重なイラスト&コメントがいっぱい!

製作スタッフチーム

◆キュアミラクル／朝日奈みらい　**高橋李依**

◆キュアマジカル／十六夜リコ　**堀江由衣**

◆キュアフェリーチェ／花海ことは　**早見沙織**

◆モフルン　**齋藤彩夏**

キャストチーム

Character Collection 1

キュアミラクル
Cure Miracle

朝日奈みらい
あさひな みらい

キュアミラクル

（声／高橋李依）

中学生の少女・朝日奈みらいが変身するプリキュア。魔法界から来たリコと出会い、ふたりの持つリンクルストーンが共鳴し、伝説の魔法つかい・プリキュアに変身した。4種類のリンクルストーンでコスチュームや魔法の特徴が異なる4つのスタイルに変身できる。変身の名乗りは「ふたりの奇跡、キュアミラクル！」。イメージカラーはピンクである。

アレキサンドライトスタイル

リンクルストーン・アレキサンドライトで変身する、伝説を超えた魔法つかいのスタイル。帽子は大きくなり、翼付きマントやフリルなどが付く。

ダイヤスタイル

リンクルストーン・ダイヤで最初に変身したときの基本スタイル。カチューシャに付いたピンクのハートは、ほかのスタイルでも同じ。

サファイアスタイル

リンクルストーン・サファイアで変身するスタイル。ブルーの色使いやセクシーなおへそ、編み髪など、大人びたイメージとなる。

ルビースタイル

リンクルストーン・ルビーで変身するスタイル。赤が基調となり、髪型はツインテール。ルビーの情熱的なイメージにチェンジした。

プリキュアたちのヒ☆ミ☆ツ教えちゃうよ♪

ふたりの奇跡、キュアミラクル！

変身前のみらいは次のページで会えるよ♪

◆ミラクルのリンクルステッキ
プリキュアに変身すると魔法の杖がリンクルステッキに変化。リンクルストーンを装着し、その石の特性を活かした魔法を出すことが可能。ミラクルのステッキの先端はハート。

トパーズスタイル

リンクルストーン・トパーズで変身するスタイル。基本カラーは黄色。キャンディーをモチーフにした髪飾りなど、ポップでキュートな印象。

ワクワクもんだぁ！

みらいの表情集

朝日奈みらい

（声／高橋李依）

津成木第一中学校に通う、元気で明るい女の子。不思議なことや面白いことが大好き。「ワクワクもんだぁ！」が口ぐせである。成績優秀でスポーツも得意だが、数学だけは苦手。1年生の春休みに魔法界から来たリコと出会い、プリキュアに変身。ふたりで魔法界とナシマホウ界（人間界）を行き来しながら、魔法も学んでいる。

魔法学校の制服

魔法界ではトンガリ帽子が必須。フード付きマントは、校章にも描かれる猫耳が付いている。

みらいのGoods

◆魔法学校のトランク
魔法学校から支給されたカギ付きの専用トランク。

◆魔法の杖のような木の枝
公園でみらいが手にした木の枝。魔法の杖に似た枝は、みらいの思いが通じて本物になった。

中学校の制服

冬は長袖にブレザー、夏は半袖シャツにベストを着用。赤い大きなリボンも特徴だ。

◆夏の制服

◆夏の私服

みらいのFamily

◆15歳のかの子
祖母は昔、魔法つかいに会ったことがある。そのときにあげた「つなぎせんべい」は、魔法学校の校長の大好物。

◆思い出のおせんべい

◆祖母・結希かの子（声／島本須美）

◆母・朝日奈今日子（声／渡辺明乃）
パワーストーンのショップを営む明るいママ。

◆父・朝日奈大吉（声／青木強）
家電メーカー勤務。新商品をすぐに買うクセがある。

お子様みらい♥

回想に登場する、幼いころのみらい。服にはハートがあしらわれ、手にはいつもモフルン♪

●小学生

◆5歳

◆4歳

みらいのファッション

みらいのオシャレアイテムはバルーンパンツとフリル&リボン

◆パジャマと上履

◆私服

◆体操服

◆水着とパーカ

◆ハロウィンの仮装"モフルン"

◆"白鳥の湖"のコスチューム

◆"シンデレラ"のネズミ

◆エプロン

◆私服

大学生になったみらい

最終話でみらいは大学生になった。リコやはーちゃんと離れ、モフルンもぬいぐるみに戻ったせいか、さびしそうな表情を見せる場面もあった。

●中学生のみらいと身長を比べると―

◆小さくなったみらい

◆調理実習用のエプロン

◆魔法学校でお泊まり

◆リコのバースデイパーティー

◆冬のコート

◆みらいサンタ

◆冬の私服

キュアマジカル
Cure Magical

十六夜リコ

ふたりの魔法、キュアマジカル！

キュアマジカル

（CV／堀江由衣）

魔法学校の女子生徒・リコが変身するプリキュア。リンクルストーン・エメラルドを探しにナシマホウ界へ来たリコは、みらいと出会い、ふたりで伝説の魔法つかい・プリキュアに変身した。変身の名乗りは「ふたりの魔法、キュアマジカル！」。イメージカラーは紫だが、カラフルな４つのスタイルに変身する。

変身前のリーは次のページで会えるモフ♪

アレキサンドライトスタイル

ダイヤスタイル

サファイアスタイル

トパーズスタイル

ルビースタイル

ねらい通りだし！

十六夜リコ

[illegible]

リコの表情集

私服

◆冬の私服

リコのGoods

◆魔法学校のトランク

◆万年筆

中学校の制服

◆冬の制服

リコのFamily

◆父リアン

お子様リコ♥

◆4歳ぐらい

◆3歳

リコのファッション

魔法学校の先生になったリコ

ション

ダイヤスタイル

魔法

変身

魔法つかいプリキュア！

キュアップ・ラパパ!

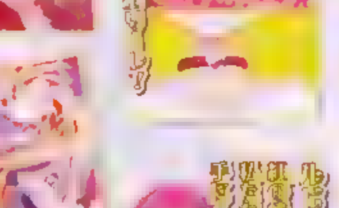
変身&魔法コレク

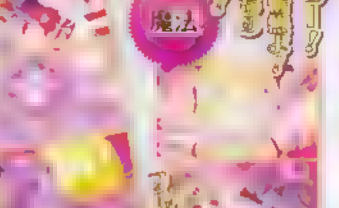
ミラクルとマジカルはふたり一緒に変身し　決めの魔法も力を合わせることで可能になる。
リンクルストーンに導かれ、ふたりの絆で奇跡を起こす。華麗なる変身と魔法のコレクション！

ルビースタイル

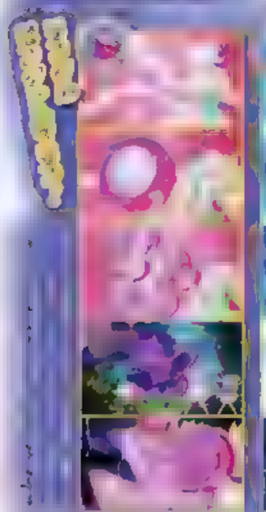
変身

魔法





7つのリンクルストーンと魔法



サファイアスタイル

変身

魔法

7つのリンクルストーンと魔法

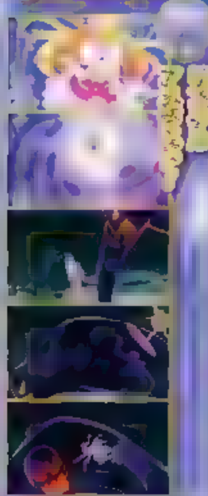
トパーズスタイル

[illegible]スタイル[illegible]
音を起こす決めの魔法はキラキラで大迫力

変身

魔法

7つのリンクルストーンと魔法



キュアフェリーチェ
花海ことは

あまねと生命に祝福を！

魔法

（CV：早見沙織）

魔法学校の図書館にあった「リンクルスマホン」から生まれた妖精の赤ちゃんが成長した少女。赤ちゃんのときに話す言葉が「はー」だったので"は[illegible]"と名付けられた。成長[illegible]た[illegible]あとはずっと[illegible]名乗[illegible]た。好奇心旺盛で明るい性格は、みらいとリコの影響を受けている。大きくなっても口ぐせは、やっぱり「は〜っ」。

◆魔法学校のトランク

◆リュック

◆応援用のうちわ

はーちゃんの成長日記

おなかがすくと外に出てくる

◆ミートボールはーちゃん

◆グレープはーちゃん

リンクルスマホンのなかから生まれ、最初に見たのがみらいたち

◆エプロン

◆水着とパーカ

◆モフテレラのネズミ

◆ハロウィンの衣装

◆ツインテール

◆ハロウィンの衣装

◆ハロウィンの衣装 スフィンクス

◆リコのバースデイパーティー

◆魔法料理用のエプロン

◆魔法学校でお泊まり

◆ことはサンタ

◆小さくなったことは

モフルン

かぼちゃ祭りのモフルン

かわいそうな衣装(?)モフルン

ガラスの靴★

「モフデレラ」でいっぱい変身したモフ♥

アイキャッチの魔法学校の制服

ドレスアップモフルン

冷凍みかんの馬車

ハロウィンの衣装"プリキュア"

魔法？

レインボーキャリッジ

モフデレラの魔法つかい

ブレンドスブレス

クリスタルに変化して

はピンチを脱したのだった。

モフルンと13個めのリンクルストーンでパワーアップ！

魔法つかいプリキュア！オーバー・ザ・レインボー！

馬車の魔法

変身

最終魔法

精霊たちに認められ完成した魔法陣

魔法界

リコの故郷で、魔法を普通の動力として使っている異世界。人魚やペガサスも住んでいる。

Miracle Collection 5

◆カタツムリニア

◆ヤドネムリン

エミリー

ケイ

ジュン

魔法学校

寮生活をしながら魔法を学ぶ学校。男女のクラスは別で、リコたちは女子クラス。魔法界の中心にある。

校長

偉大な魔法つかいで、魔法界全体を見守っている。年齢不詳をはじめとした「校長の七不思議」がある、謎の多い人物。

◆ピーカンみかんの砂時計

◆モフデレラ

◆アイザック先生

◆教頭

人魚の里

魔法界の人魚たち

◆シシーム

◆ドロシーム

妖精の里

魔法界のどこかにある里。みらいたちはリンクルストーン・アメジストの力で里を訪れ、ここでマザー・ラパーパをはじめとする世界の真実を知った。

◆レジェンド女王の幼少期

◆妖精王

◆マザー・ラパーパ

魔法商店街の人々

◆魔法の森

ナシマホウ界（人間界）

みらいたちが住む世界のことを魔法界ではこう呼んでいる。魔法が「なし」でナシマホウ。

長瀬まゆみ
（声　本田のみ）

勝木かな
（声　福圓美里）

津成木第一中学校

◆学校のかばん

壮太ゆうと
（声　朝井彩加）

◆ハロウィンの仮装（ミイラ男）

大野壮太
（声　高橋李依）

◆ハロウィンの仮装（オオカミ男）

◆リリィのカノ

◆カイリ

◆十年後のかなとまゆみ

◆おじいさん

闇の魔法つかい ドクロクシー一味

世界を闇でおおいつくそうとする勢力、強力な魔力を秘めているリンクルストーン エメラルドを狙ってプリキュアたちと激突する。

◆パワーアップバージョン

バッティ

（声：[illegible]）

ドクロクシー[illegible]よって[illegible]から生みだされた[illegible]的にふるまうが[illegible]怪物ヨクバールを使う[illegible]

◆魔法学校でリスタート

[illegible]

[illegible]

（声：[illegible]）

ト[illegible]よって[illegible]の[illegible]目的のためには手段を選ばない。自らをヘンコブタと合成し、ヨクバール化した

◆怪物ヤモー

[illegible]

◆モフ[illegible]の[illegible]魔法つかい

◆人間に変身

◆中身はドクロクシーのカカシ

◆5頭身ヤモー

[illegible]

[illegible]

（声：[illegible]）

ドクロ[illegible]の側近[illegible]思想を[illegible]たちにむえと[illegible]ドクロク[illegible]敗北後もドクロクシーの力[illegible]に[illegible]

◆パワーアップバージョン

(声 中田譲治)

[illegible]の魔法によってワンダ[illegible]生み出され[illegible]魔法戦士[illegible]で[illegible]など武士道精神に似た[illegible]面も持つ

◆パワーアップバージョン

◆パワーアップバージョン

(声 中村[illegible])

トウ[illegible]の正体は魔法学校の校長の補佐[illegible]た[illegible]の学甲[illegible]の強い力を求める研究が[illegible]手を[illegible]としてもなお[illegible]らその[illegible]の闇に[illegible]ていたのである

ドクロクシーの正体は……

◆ドクロウ[illegible]の本

ドクロクシー

(声 [illegible]介)

[illegible]の[illegible]ト[illegible]椅子に座り[illegible]最後まで動くことはなかった[illegible]ト[illegible]の中には[illegible]を求める[illegible]る思念だけが存在していた

◆パワーアップバージョン

◆さらにパワーアップしたマッチョドクロクシー

◆ドクロムシー

Character Collection 8

終わりなき混沌 デウスマストとその眷属

デウスマストはすべての生命を飲み込み、宇宙を混沌に戻そうとしていた。その眷属（　　族）は「ムホウ」という力を用いて、怪物ドンヨクバールをプリキュアたちに差し向けてくる。

シャーキンス

（声　[illegible]）

古武士のような性格。口うるさいため、ベニーギョによく煙たがられていた。42話で巨大化した

ラブー

（声　[illegible]）

ナシマホウ界の遺跡にあったランプから出現した。なまけ者であるが、高い戦闘能力を誇る。本気を出すと巨大化して凶暴になる。

◆パワ[illegible]

オルーバ

（声　[illegible]）

人間を知るために人間の文明に興味を持つ。メガネをかけているのはその表れだ。冷静で残忍。自[illegible]

チクルン

（声　[illegible]）

妖精の里に住む妖精だが、[illegible]

◆ハロウィンの衣装 "ウサギ"

◆パワーアップバージョン

◆ベーキサン

ベーキチ

（声　井上喜久子）

ギャル[illegible]よし[illegible]時間[illegible]に[illegible]て[illegible]で戦[illegible]をやめたこともある。[illegible] 47話で呼びの不完全な[illegible]と一体化して、[illegible]を破壊した。

◆パワーアップバージョン

デロスマスト

終わりなき戦乱[illegible]かつて宇宙を混沌に陥すため、マザー[illegible]とともに戦い[illegible]たあと、太陽のなかに封印されていた。

◆オル[illegible]バの本来の姿

Character Collection 9

闇の魔法が造りし怪物 ヨクバール

ヨクバールは、ふたつの物を闇の魔法で合体して生み出される。ドクロクシー一味がプリキュアたちを苦しめた怪物で、力の強弱の違いによって「スーパー」「ハイパー」「モット」といったバリエーションがある。デウスマストの眷属たちは、ヨクバールよりはるかに凶暴な「ドンヨクバール」を出現させた。

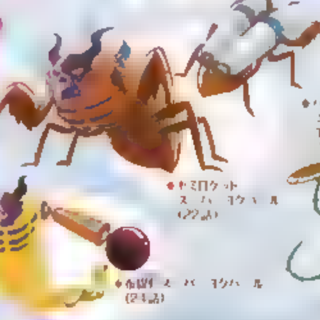
◆岩石&冷凍みかん ヨクバール (3話)

◆トラックカラス ヨクバール (1話・2話)

◆雪だるま氷 ヨクバール (5話)

◆サッカーボール ヨクバール (14話)

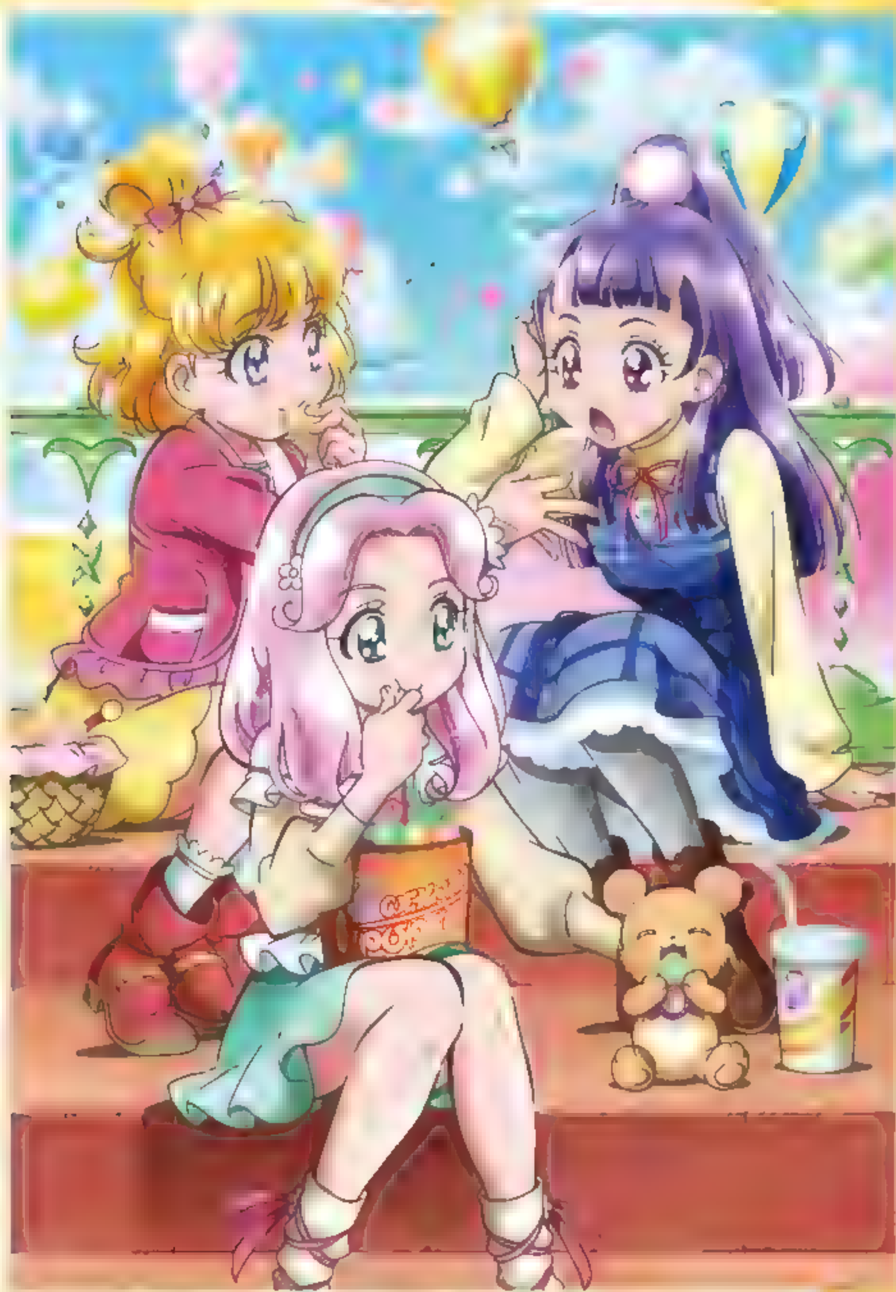
◆オートバイ ヨクバール (10話)

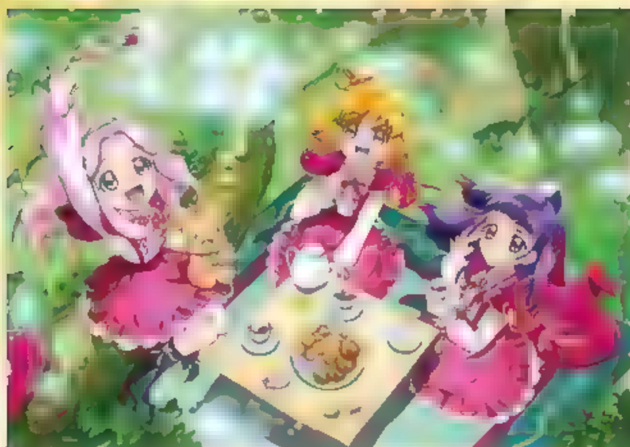


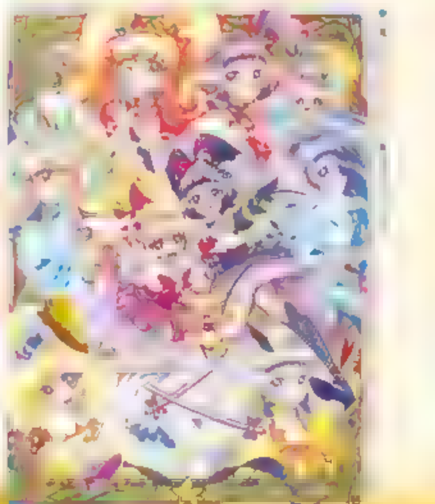
◆クラッカー帽子
ドンヨクバール
(40話)

Illustration Gallery

各雑誌の描きおろしイラストや番宣ポスターなどの美麗イラストをチェック！



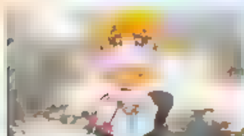




Guide

みらい、リコ、モフルン、はーちゃん。魔法界とナシマホウ界に眠っていた12種類のリンクルストーンを目覚めさせ、その力を借りて闇の勢力と戦った4人の冒険を振り返ろう。

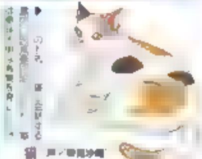
キュアップ・ラパパ！ プリキュアたちの活躍をプレイバック！



第1話 出会いはミラクル！ マジカル！ 魔法のプリキュア誕生！

ふたりで伝説の魔法つかいプリキュアになっちゃった

朝日奈みらいは、春休みが明けると中学2年生になる女の子である。ある月夜、空を飛び回る何かが森に落ちるのを目撃したみらいが翌日そこを訪れると、探し物をする魔法つかいリコと出会う。ふたりの前にリンクルストーン・エメラルドを狙う、ドクロクシーの手下バッティが現れ、怪物ヨクバールを生み出して襲ってきた。ピンチのふたりが「キュアップ・ラパパ」という魔法の呪文を唱えると、ふたりのペンダントが輝き、みらいはキュアミラクル、リコはキュアマジカルという伝説の魔法つかいプリキュアに変身。バッティとヨクバールを追い払うと、ぬいぐるみのモフルンが動いてしゃべりだした。リコはみらいを魔法界へ連れて行くことにした。

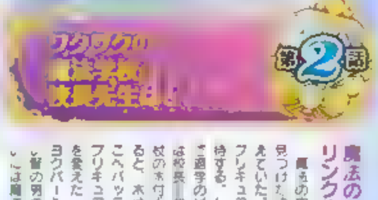


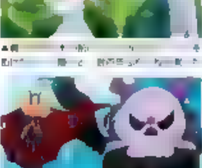
▶ふたりが付けていた…デザインのペンダントがリンクルスト…

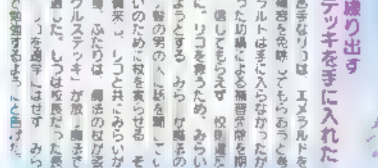
第2話 ワクワクの魔法学校 校長先生…

魔法の力を繰り出す リンクルステッキを手に入れた

魔法の実技が苦手なリコは、エメラルドを見つけた功績で補習を免除してもらおうと考えていた。エメラルドは手に入らなかったがプリキュアになった功績による補習免除を期待する。しかし信じてもらえず、校則違反で退学のピンチに。リコを救うため、みらいは校長に説明しようとする。みらいが魔法学校の木付近で長い髪の男の人に話を聞いていると、木はみらいのために杖を実らせる。そこへバッティが襲来し、リコと共にみらいがプリキュアに変身。ふたりは魔法の杖が姿を変えた「リンクルステッキ」が放つ魔法でヨクバールを撃退した。じつは校長だった長い髪の男の人は、リコを退学にはせず、みらいには魔法学校で勉強するように告げた。







第3話 魔法商店街…ショッピング…目覚める…

みらいの魔法学校の制服とほうきをまとめて購入する

みらいは、春休み中に行われる魔法学校の補習に参加することになる。準備のためリコと一緒に魔法商店街を訪れたみらいは、学校の制服と魔法のほうきを購入、ほうきの調整をしてもらう間に、商店街を見て歩く。そこへ闇の魔法つかい、ドクロクシーの手下のひとりであるスパルダが現れ、スパルダにみらいのリンクルストーン・ダイヤを奪われてしまい、ふたりはプリキュアに変身できない。しかし、大切な人たちが暮らしている街を破壊するスパルダを許せないという2人の気持ちが、リンクルストーン・ルビーを目覚めさせる。ルビースタイルに変身してヨクバールを追い払ったふたりは、制服を着えたおそろいのほうきを手にして微笑むのだった。

第4話 魔法の授業…

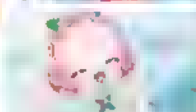
魔法学校の図書館の本から小さな赤ちゃんが誕生した

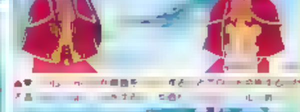
リンクルストーンは、エメラルドを中心に12個ある。校長は、みらいとリコならば、それらとめぐり会えるかもしれないと期待した。補習の授業が始まり、参加した生徒はふたりと、ジュン、ケイ、エミリーの5人。授業は全6回で毎回テストに合格しないと進級できないが、みらいとリコはどちらかが合格すればOK。最初の授業は、折り紙の蝶を捕まえること。図書館で蝶を探すふたりは、ドクロクシーの3人目の手下、ガメッツに襲われる。逃げるふたりが導かれるように光る本を手にすると、別の空間へ飛ばされた。そこでヨクバールを撃退したふたりは、蝶を捕まえて補習のテストに合格。光る本に花が咲き、そこから赤ちゃんが生まれるのだった。

第5話 氷の魔法…

魔法に失敗したリコがみらいに八つ当たり!?

赤ちゃんが生まれた本の名前は「リンクルスマホン」。リンクルストーンをはめると赤ちゃんのお世話をする道具が現れ、赤ちゃんは当初はそのなかで眠っている。それを待って、ふたりは補習の授業へ向かう。2日目の課題は、極寒の氷の森で、魔法のやかんを沸かしてお茶をいれること。リコ以外はみらいが発案した「おしくらまんじゅう」で体と心を温めて魔法に成功し、全員合格。自力で合格したいリコはみらいとケンカになるが、吹雪を避ける間に互いに反省して仲直りした。すると、空からリンクルストーン・アクアマリンが降りてくる。バッティのヨクバールを退けて互いの理解が深まったふたりは、「みらい」「リコ」と名前で呼び合うことにする。





第6話 特訓！魔法の杖！ 先生はリコのお姉ちゃん!?

実姉で教育実習生のリズを避けてしまうリコの心は？

3日目の補習の授業は、魔法の杖の実技。講師のアイザック先生の代理で授業を担当するのは、リコの姉で教育実習生のリズ。みらいとモフルンたち3人は、リズの指導で上達するが、実技が苦手なリコは失敗の連続で授業を飛び出してしまう。[illegible]リコは[illegible]ダ[illegible]トをリズに託された[illegible]リズを目標にしてきたが、リズのように魔法がうまく使えないことがコンプレックスだった。そこへ、リズを[illegible]うと勘違いしたスパルダがヨクバールで襲撃。姉を大切に思う気持ちにリンクルストーン・アクアマリンが応えて、マジカルはリンクルステッキで氷の輝きを繰り出す。ヨクバールを撃退して補習の授業が再開し、リコは氷の魔法を使ってテストに合格した。

第7話 人魚の里の魔法！ よみがえるサファイアの想い

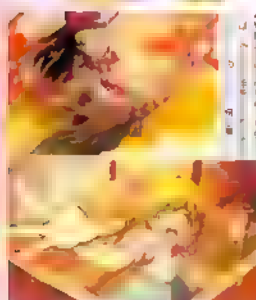
人魚の宝物の大きな貝からリンクルストーンが出現！

補習の授業4日目の舞台は、海底の人魚の里。6人は特別講師・人魚のロレッタから歌を学ぶ。マール貝に話しかけ、心が開いて貝が開けば合格だ。人魚の子どもたちと仲よくなったみらいとリコは、人魚の宝物の大きな貝を見せてもらう。そこへガメッツが襲来。モフルンを人魚の子どもたちに預けてしまったプリキュアに変身できないふたりは大ピンチ。だが、決してあきらめないふたりの心がマール貝だけでなく里のみんなにも届いて光を放つ。光を受けた人魚の宝物の大きな貝も開き、リンクルストーン・サファイアが出現。それを使ってサファイアスタイルに変身したふたりは、新たな力でヨクバールを退治。マール貝が開いたので、補習テストにも合格した。

第8話 魔法の[illegible] ペガサス親子を救え

ヨクバールに変えられた母ペガサスを助けよう！

5日目の補習の授業での課題は、魔法のほうきに乗ってペガサスと記念撮影をすること。しかし、まだうまくほうきに乗れないみらいは、彼女を助けようとしたリコと一緒に森へ墜落してしまう。ふたりは、そこで傷ついたペガサスの子どもと出会い、森の広場に咲く癒しの花を見つけて治療してあげた。それに感謝する母ペガサスの涙が癒しの花に触れると、リンクルストーン・ピンクトルマリンが生まれた。ところが、そこにスパルダが現れて、母ペガサスをヨクバールにしてしまう。その後、リンクルステッキのピンクトルマリンの魔法でミラクルが母ペガサスを救出して、ヨクバールを退けることに成功。ペガサス親子と記念撮影できたふたりはテストに合格した。

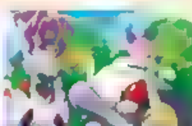


第9話 さよなら魔法界!? みらいとリコの最後のテスト

補習メイト5人のチームとリズひとりが魔法で対決！

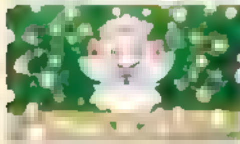
最終日の補習の授業は、生徒チームとリズの魔法対決。相手の帽子に付けた魔法玉の花を咲かせた者が勝ちとなり、花が咲いた者は失格となる。生徒全員が失格になれば、全員不合格。しかし、ひとりでもリズの花を咲かせることができれば全員合格だ。校長や教頭が見守るなか、対決開始。生徒は次々と脱落するが、ひとつのほうきに乗ったみらいとリコがすれ違いざまに放った魔法でリズの花が咲いて、全員合格に。バッティが合格証を使いヨクバールを生み出すものの、プリキュアの活躍で無事に合格証を取り戻すことができた。ナシマホウ界へ帰るみらいとモフルンを乗せたカタツムリニアへ、ほうきで追うリコが飛び乗る。みらいとリコは、これからも一緒だ。

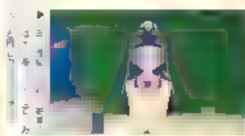
第10話 ただいま!! ナシマホウ界! ってリコはどこ？

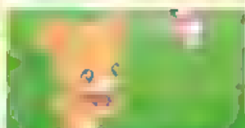


津成木駅に到着した途端リコとはーちゃんが迷子に

ナシマホウ界に着いたふたりは、津成木駅でリンクルストーン・トパーズを発見。だがトパーズはカラスに奪われ、それを追って飛び出したはーちゃんとリコは、みらいとはぐれてしまう。親切な女の人に助けられたリコは、その人との会話から、みらいとの思い出の場所であるイチゴメロンパンの店を思い出す。そこへリコが駆けつけると、無事にみらいと再会できた。トパーズをくわえて逃げる鳥を追うふたりをスパルダが襲撃。ふたりはヨクバールを退けるがトパーズを見失った。みらいの家に案内されたリコは、親切な女の人がみらいの母だったことに驚く。だがふたりが初対面と思っているみらいもまた、リコと母が親しげに話す様子にビックリする。







第11話 モフルンの初登校!? ワクワクのトパーズ探し

みらいとリコにナイショでモフルンたちも学校へ♪

リコは魔法学校の教頭の手配で津成木第一中学校への留学が決まって、みらいの家で暮らすことになった。魔法界へ帰る教頭は、「魔法を人に見られてはいけない」ときつく注意する。だがふたりは、登校するときにはほうきに乗る癖や、学校についてきたモフルンやはーちゃんを同級生に見られて大慌てする。その一方でモフルンとはーちゃんは、学校で見つけたトパーズをガメッツから守るために大奮闘。その勇気に応えるトパーズの力によって、みらいとリコはトパーズスタイルに変身した。ヨクバールを倒すと、はーちゃんが成長。「一緒にいたい」というはーちゃんたちの想いを知ったふたりは、「見つからないように」と注意して、4人で学校に通うことにする。

第12話

一途に前を見るだけでなく別の見方をすることも大切

魔法の学校では優等生だったリコは、ナシマホウ界の中学校でも勉強に意欲を見せる。ところが、魔法界とは星の呼び方が違うなど、リコの意気込みは空回り。何事も完璧を目指すリコはバレーボールに誘われても、ひとりで入門書を読んでやり方を覚えようとする。みらいはリコを夜の散歩に誘い、幼いころに夜の丘で迷子になり、満天の星の美しさで怖さを忘れた思い出を語る。それは「前を見るだけでなく、見方を変えてもいいのでは」というアドバイスだった。そこに現れたスパルダのヨクバールを撃退し、空の上まで飛んでいくと、満天の星空からリンクルストーン・タンザナイトが舞い降りてきた。翌日からリコは素直な気持ちで同級生と話せるようになった

第13話 たのしいBBQ

便利な道具や魔法を使わないことで見えてくる幸せもある

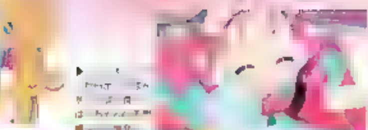
キャンプ場でバーベキューをすることになったみらいとリコ。まゆみ、壮太、ゆうとも一緒で、かなも家族で来ていた。校長からふたりへの手紙を託されたリズも合流。手紙には、近くにリンクルストーンがあると書かれている。リコは魔法で探すが、見つからない。バーベキューに戻ったリコは、支度が面倒な飯ごうで炊いたご飯や串焼き料理のおいしさに驚く。みらいはリコに、不便のなかから見えてくる幸せもあると教えた。バッティのヨクバールを退けたふたりは、校長がリズに手紙を運ばせたのは、魔法を使わず探しなさい、ということだと気づく。リコが野原で光り輝く四つ葉のクローバーを見つけると、それはリンクルストーン・ペリドットになった

▲野原で見つけた輝く四つ葉のクローバーがペリドットになる

第14話

数学で"赤点"のみらいが再テストに本気でチャレンジ

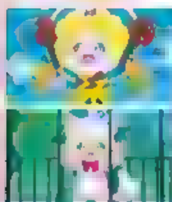
中学校の数学のテストが返された。リコは花丸付きの満点だが、数学が苦手なみらいは落第点の"赤点"で、再テストを受けることになった。リコに勉強を教わるみらいの横では、はーちゃんは花丸を描く練習。人知れず努力するリコは「無駄な努力はない。頑張れば自分の力になる」と考えている。それを知ったみらいも、数学の勉強に本気で取り組んだ。リコの応援に応えようと頑張ったみらいが結果を待っていると、学校にガメッツが現れる。魔法を駆使してヨクバールを退治した。はーちゃんが合格したみらいへのご褒美として満点の花丸を描くと、そこへ月の光が舞い降りて、リンクルストーン・ムーンストーンが現れた

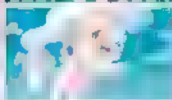
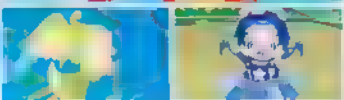


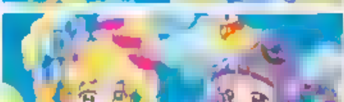
第15話

魔法のごはんを食べすぎたはーちゃんが次々に変身ー

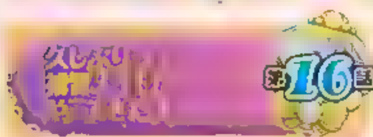
ある朝、お腹をすかせたはーちゃんは、自分でリンクルスマホンから食事を出そうとする。ところが、すべてのリンクルストーンが代わる代わるセットされ、大量の食事が出現！　満腹のはーちゃんは、リンクルストーンの力でしゃっくりをするたびにさまざまな姿に変身してしまう。家を飛び出したはーちゃんは多くの人に目撃され、学校中のウワサの的に。校外でスパルダに捕まるはーちゃんだったが、みらいとリコが救出。みらい、リコ、モフルンは、はーちゃんの話を聞いてあげられなかったことを反省し、はーちゃんもひとりで家を出たことをあやまった。中学校では、目撃した人たちが前向きな気持ちになったことから、はーちゃんは「幸せの妖精」と呼ばれた。



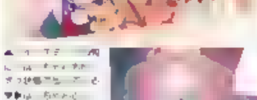


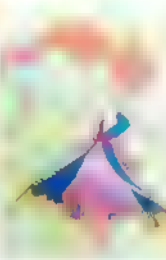
第16話

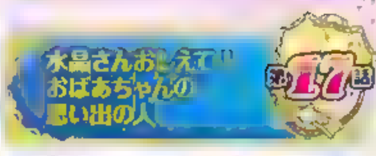


プリキュアの力が増してスパルダの撃退に成功！

魔法学校のジュン、ケイ、エミリーの3人が、服飾のフランソワに連れられナシマホウ界にあそびに来た。かなとまゆみを加えた一行は、ショッピングモールを訪れる。魔法学校の話やジュンの将来の夢を聞いたリコは、自分が置いていかれる不安を覚えた。一方みらいは、自分もなりたいものが決まっていないと打ち明ける。そこへトクロウから、リンクルスマホンを奪えという新たな命令を受けたスパルダが現れた。スパルダに倒されるプリキュア。しかし、ふたりが仲間のために闇の世界にさせない、と決意すると、リンクルスマホンとはーちゃんが輝く。力を増したふたりに敗れたスパルダは本来のクモの姿に戻り、[illegible]ィが吸収した。

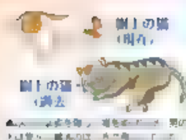


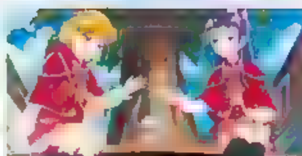


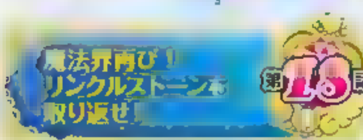


思い出の男の人は木の上の猫を助けた魔法つかい!?

みらいの祖母は、少女時代に不思議な男の人と出会った。その人を捜すために、みらいとリコは水晶を伴って出へ出た。[illegible]を寄生するみらい。の祖母に話を聞くふたりは、木から下りられない猫を発見。魔法のかかった箱で姿を隠して猫を助けたふたりだが、ようきに現[illegible]ろ[illegible]が[illegible]出[illegible]しくなる。それを見て、みらいの祖母は不思議な男の人もほうきに乗って猫を助けてくれたのを思い出す。みらいの祖母と別れたふたりは、様が姿を変えたリンクルストーン・ガーネットを発見。だが、それをガメッツに奪われてしまう。同じころ魔法界では、校長が過去に[illegible]、マホウ界の少女にもらった思い出の品である「つながりせんべい」をおいしそうに頬張っていた。





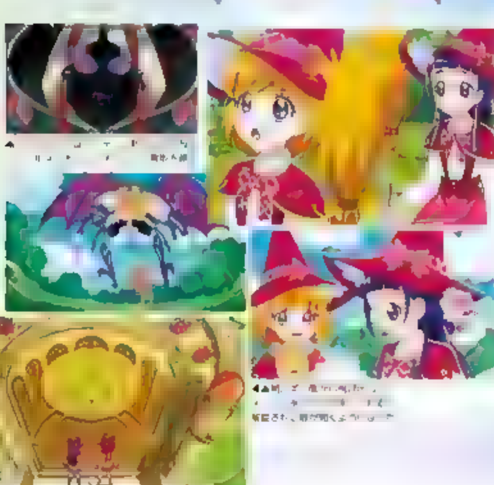


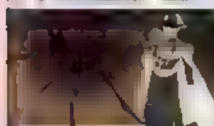
ガメッツと果たし合い！

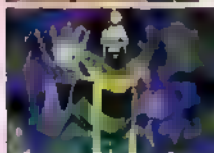
ガーネットを奪ったガメッツから「最果ての島で待つ」という果たし状が届いた。最果ての島は、魔法界の奥地の空に浮かぶ島。魔法界へ急いだふたりは、人魚のロレッタとペガサス母子の協力で、最果ての島へたどり着いた。ふたりを待ち構えていたガメッツは、姿を変えて真の力を解放し、ふたりにはルビースタイルで戦うように要求する。ガメッツの力は強く、ルビースタイルのふたりもかなわない。しかし、倒れたふたりの前にはーちゃんが立ちはだかると、リンクルスマホンが輝いて、闇のフィールドが消滅。プリキュアの強さを信じるはーちゃんの想いを受け止めたふたりはガメッツを打ち破り、潔く負けを認めたガメッツはガーネットを返してカメに戻った。

姿を消した校長を探して学校を支える大木の頂上へ

ふたりは、はーちゃんとリンクルスマホンの秘密を校長に教えてもらうため、魔法学校を訪れた。だが校長は、しばらく留守にするというメッセージを残し、水晶と共に姿をくらましていた。誰も校長の居場所を知らないが、リズは、学校を支える大木の頂上に校長だけが行ける「開かずの間」があると話す。頂上へ向かうふたりの前に、バッティが現れ、[illegible]とスパルダとガメッツの3つの杖と[illegible]か合体し、苦戦。だが、再びはーちゃんとリンクルスマホンの力で闇のフィールドが消滅。バッティの撃退に成功。開かずの扉から出現したリンクルストーン・アメジストの導きで扉が開く。ふたりは、そこに校長がいることを期待して扉の先へ進むことにした。



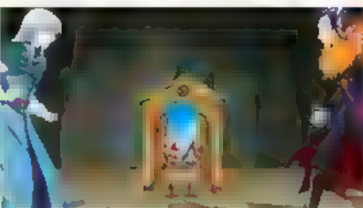




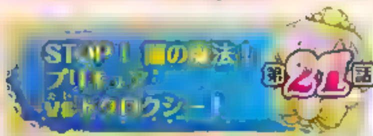
第20話 ドタバタでヤバスギ!? 魔法界にのまれたエメラルド!

蘇ったエメラルドの力でドクロクシーが完全体へ!

閉ざすの扉は、闇に浮かべた人や物の場所へ通じている。校長を追い、みらいとリコが扉を開けると、そこはドクロクシーの本拠地。校長は、ひとりでドクロクシーたちに立ち向かっていたのだ。ドクロクシーの正体は、若き日の校長の友、クシィ。クシィは禁断の闇の魔法を蘇らせて命を落とした。その欲望がかりそめの体に残ったのがドクロクシーだ。激しい戦いで力を使い果たした校長は本来の老人の姿となり、ふたりはドクロクシーにリンクルスマホンを奪われる。ふたりの、はーちゃんを返して、という思いに応え、ついにエメラルドが目覚めるが、ドクロクシーはエメラルドの力を得たリンクルスマホンを自らの体に取り込むことで、完全体へと変貌した。



第21話 STOP! 闇の魔法! プリキュアvsドクロクシー!



ドクロクシーを撃退するもはーちゃんが行方不明に

ドクロクシーが完全体となり、魔法界だけでなく、ナシマホウ界も闇の霧に覆われた。しかし、決してあきらめないふたりに、闇のリンクルストーンが応え、ふたりは再び変身。ヤモーさえ吸収、その力を糧にドクロクシーは校長をも吸収しようとする。力を合わせるのではなく、息を合わせて、ドクロクシーに怒るふたりが猛反撃すると、光の玉となったはーちゃんがドクロクシーの口から飛び出した。ドクロクシーはふたりに撃退されたが、悲しみだけが残った。成長したはーちゃんはやさしく包み込んでドクロクシーの魂を……若き日の姿を取り戻したクシィの魂と共に消えていった。……ル、はきっとまた会える、と言うのだった。

第22話

水晶の予言的中！"強き命"はーちゃんが戻ってくる

中学校のテストで学年1位になってもうれしそうではないリコ。明るくふるまうも悩みを隠しているリコの様子のみらい。ふたりとも行方不明のはーちゃんのことが気がかりなのだ。みらいはもう一度はーちゃんを捜そうと提案するが、リコは魔法界へ帰って魔法を勉強し「もっと力をつけてエメラルドやはーちゃんを探す」と考えていた。その魔法界では水晶が「幼い命が散り、強き命が戻る」というお告げを校長に伝えた。みらいとリコの前に謎の怪物によって再生したヤモーが現れる。ふたりが苦戦していると、リンクルスマホンを持つ少女が現れて、キュアフェリーチェに変身。スーパーヨクバールをいともたやすく倒した彼女の正体は、成長したはーちゃんだった。

第23話

エメラルドを見つけたので リコたちは魔法界へ帰る？

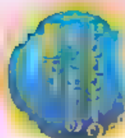
はーちゃんがなぜプリキュアに変身できて、今までどこにいたのかは、はーちゃん自身もわからない。はーちゃんが覚えているのは、花が海のように広がる光景だ。リコはエメラルドを探すために、ナシマホウ界に来ることを許されたので、はーちゃんがエメラルドと共に現れた以上、ふたりで一緒に魔法界へ帰らなくてはならないかもしれない。ふたりは校長に相談すべくみらいの家へ向かうが、ほうきに不慣れなはーちゃんが迷子になる。スーパーヨクバールに襲われたはーちゃんは、駆けつけたふたりとの連携プレーで撃退に成功。報告を受けた校長は、みんながこれからも一緒にいることを許す。また、みらいの母も、はーちゃんがみらいの家に同居することを許してくれた。

みらいの家で暮らし始める

第24話

自分の力で努力をするとミルクがおいしく飲める♪

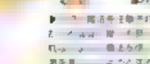
すっかり成長したことはと同じベッドで寝るのは窮屈なので、空き部屋をことは専用の部屋にすることになった。ことはは魔法を使って部屋の荷物を片付け、家具を生み出していく。さらにことはは、魔法を使ってみらいの父を手伝おうとするが、リコに注意され、自分の力でできる手伝いをする。手伝いを終えて飲んだモフルンのおいしさに驚くことはに、リコは「努力をしたからおいしい」と教える。3人は部屋飾りの買い物の最中にヤモーに襲われるが、力を合わせてスーパーヨクバールを撃退した。きれいに飾りつけられた部屋が完成して、ことはは、みんなへの感謝の気持ちとして、魔法を使わず、手作りしたビーズのネックレスをプレゼントした。

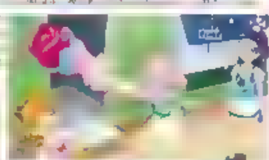


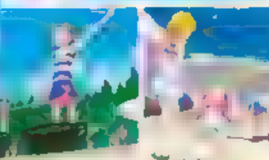
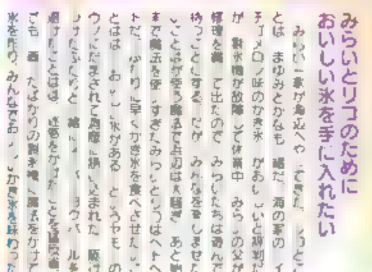
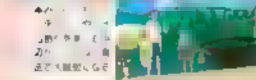
第25話

みらいとリコのためにおいしい氷を手に入れたい

みらい一家が海辺へやってきた。リコとことは、まゆみとかなも一緒だ。海の家のイチゴメロン味のかき氷がおいしいと評判だが、製氷機が故障して休業中。みらいの父が修理を[illegible]て出たので、みらいたちは遊んで待つことにする。だが、みんなを[illegible]しませたいことはが空回りで[illegible]。あと[illegible]まで[illegible]を使いすぎたみらいとリコはヘトヘトへ。ふたりに早くかき氷を食べさせたいことはは、おいしい氷があるというヤモのウソにだまされて洞窟に誘いこまれた。駆けつけたふたりと一緒に[illegible]ヨクバールを退けたことはは、迷惑をかけたことを[illegible]。ことも[illegible]直したばかりの製氷機に魔法をかけて氷を作り、みんなでおいしいかき氷を味わった。



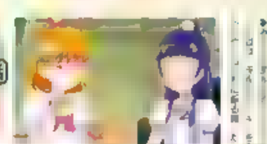
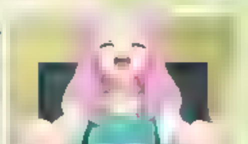
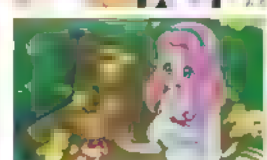


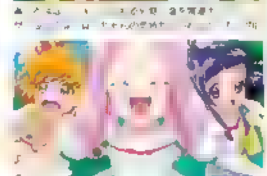
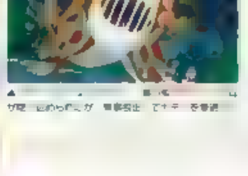




第26話

ふたりを巻き込みたくないやさしいことはが家出する

「ヤモーに嫌われる自分が嫌」いるとみらいとリコまで危険な目に遭わせてしまう。そう考えたことはは、手作りのクッキーをふたりにごちそうすると何も言わずに家を出た。元気をなくして[illegible]ことはがクッキーを食べると塩と砂糖を間違えていたことに気づく。ふたりがそれを指摘しなかったことが、ことはをさらに悲しませた。そこに現れたヤモが自身をスーパーヨクバールに変え、ことはを体内に捕らえてしまう。駆けつけたみらいとリコに、「クッキーを作ってくれたはーちゃんの気持ちがうれしくて本当においしかった」と言われ、ことはの心は晴れやかになった。ヤモを撃退したふたりは、みんなで手をつないで家路に着くのだった。

第1話〜第21話「Dokkin 魔法つかいプリキュア!」

第22話〜第50話「Dokkin 魔法つかいプリキュア! Part2」

ED 第1話〜第21話「CURE UP↑RA♡PA☆PA! 〜ほほえみになる魔法〜」

[illegible]

ED 第22話〜第50話「魔法★アラ・ドーモ!」

[illegible]

●エンディングテーマ振り付け [illegible]

●主題歌 OP「Dokkin♢魔法つかいプリキュア!」

[illegible]

●主題歌 OP「Dokkin♢魔法つかいプリキュア! Part2」

[illegible]

●主題歌 ED「CURE UP↑RA♡PA☆PA! 〜ほほえみになる魔法〜」

[illegible]

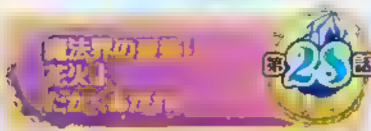
●主題歌 ED「魔法アラ・ドーモ!」

[illegible]

第27話

魔法でも闇の魔法でもない「ムホウ」を使う新たな敵

みらいたちは夏休みを利用して魔法学校を訪れた。生徒が夏祭りの準備中で、補習メイト3人とも再会した。湖上庭園へ向かったみらいが魔法の杖が実る木の前で校長と話をしていると、ヤモーを甦らせたラブーが現れる。魔法とは違う力「ムホウ」を使う終わりなき混沌デウスマストの眷属で、降臨するデウスマストを迎えるため預言者を自称するという。みらいと校長は結界に閉じ込められて、ラブーが生み出したドンヨクバールに襲われる。そこへエメラルドの力で結界を破ったことはが駆けつけた。みんなで一緒にいるためなら、できることはなんでもすると言うみらい。校長も奮闘してドンヨクバールが撃退されると、ラブーは去っていった。

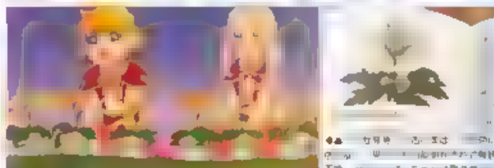


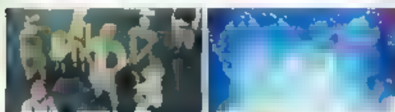
第28話

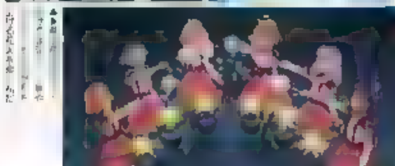
魔法界の夏祭り！花火よ、…

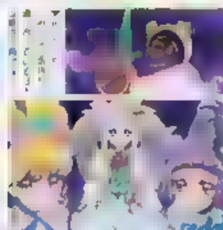
花火を打ち上げる不思議な花を探す補習メイトが大奮闘

魔法学校の夏祭りのメインイベントは、生徒が打ち上げる花火。今回それを担当するのは、なんと補習メイトの3人だ。だが、花火を出す「ドンドン花」がしおれている。アイザック先生によれば、代わりとなる「パチパチ花」があるそうだ。そこで、みらいとことはたちは花を探しに行き、りこたちは図書室で花を調べる。洞窟で見つけたのは、色違いの4種類の花。りこたちはみらいたちを呼んで準備を進め、みらいとことはは、りこたちの期待に応えるべく、選んだ花を持ち帰る。ラブーのドンヨクバールに襲われるみらいたちだが、りこも参戦して撃退に成功。みらい、りこ、ことはも加わった6人で打ち上げる花火は、魔法界のみんなの心をワクワクさせた









第29話

魔法界の『シンデレラ』とプリキュアのワクワクコラボ

ある夜、夢の世界で『シンデレラ』の物語が展開する。魔法つかいのシンデレラ、のみらいとことはが、モフデレラとなったモフルンの願いをかなえるために夜の舞踏会へ。モフデレラが王子の相手に選ばれるのが気に入らない継母と姉たちは、魔法つかいに、モフデレラを怪物にするように依頼する。だが跳ね返された魔法をおびた継母が巨大化したので、3人はプリキュアに変身。ダンス対決になり、敗れた継母たちが改心して大団円。元の世界へ戻るプリキュア3人の危機を救おうとするモフルンの強い思いと3人の魔法の力がひとつになって、新たな馬車が生まれる。翌朝、夢から覚めたみんなの前に、魔法の馬車 レインボーキャリッジがあった。

第30話

魔法の自由研究

補習メイト3人はそれぞれの将来の夢に向かって前進中

みらいたちが補習メイトの夏休みの自由研究を手伝う。ジュンはみらいとリコをモデルにアートを制作、エミリーはことはに聞いて『アレン』の研究、ケイはモフルン図鑑の作成だ。3人は将来の夢につながる自由研究に取り組んでいたのだ。リコは、自分が将来の夢を見つけていないことを悩む。そんなリコに、ジュンは「焦らず好きなことを見つければいい」とアドバイスしてくれた。そこへラブーが現れ、ジュンたちの道具を使ってドンヨクバールを生み出す。魔法をバカにするラブーに怒るみらい。彼女に応えるようにダイヤとレインボーキャリッジが輝き、ドンヨクバールを退ける。補習メイトの自由研究は完成し、みらいたちはナシマホウ界へ帰っていった。

第31話 結晶する想い！ 虹色のアレキサンドライト！！

13個目のリンクルストーンでプリキュアが新スタイルに！

カタツムニアの魔法からはずれた要素がふたつの世界のはざまに迷い込んでしまう。ラブーの仕業だ。立ち向かう3人は、巨大なラブーの強烈な攻撃で吹き飛ばされて離ればなれに。弱気になる3人だが、また魔法がある、みんなとつながりたい、みんなと笑顔でいたい、という強い心で立ちあがる。3人が集結すると、13個目のリンクルストーン、アレキサンドライトが現れた。その力でアレキサンドライトスタイルに姿を変えた3人は、モフルンが呼ぶレインボーキャリッジの力とあわさって、新たな魔法「プリキュア・エクストリーム・レインボー」を放って、ラブーの撃退に成功する。すると、その周囲を12個の宝石がふわふわと飛び回るようになった。

自転車に乗る親子（33話）

相手チームのユニフォーム（32話）

津成木第一中学校サッカー部のユニフォーム（32話）

第32話 ワクワクいっぱい！ はーちゃんの学校生活!!

みらいたちの同級生になることはが壮太の部活を応援

2学期が始まり、みらいやリコと同じ学校の同じクラスへ通うことになったことはは大喜び。楽しく授業を受けるなか、元気のない様子の壮太のことが気になる。壮太はサッカー部の部長として部員をまとめられないことに悩んでいたのだ。だが、ことはの「壮太がワクワクならみんなが笑顔になる」というアドバイスで壮太は元気を取り戻す。一方、デウスマストの眷属、シャーキンスが復活し、試合前のサッカー場に来ていた3人を襲う。ことはが壮太から教わったサッカーのテクニックを駆使してドンヨクバールを退けるとシャーキンスは退散した。試合は引き分けたが、壮太は「ことはのおかげでサッカー部がまとまったので、いい試合ができた」と喜んだ。

第33話 すれ違う想い!? 父と娘のビミョ〜な1日!!

互いに接し方がわからない困った親子のリアン&リコ

リコの父で考古学者のリアンがみらいの家を訪れる。目的は校長に依頼された魔法界の古い伝説に関わる調査。リコは、久しぶりに会うのに仕事の話ばかりの父にさびしい気持ちになる。それはリアンも同じ。ふたりは互いにどう接していいのかわからないのだ。その頃、デウスマストの眷属、ベニーギョが現れ、マジカルをかばって傷つくリアンをあざ笑う。ベニーギョに怒りを覚えたマジカルたちは、ベニーギョのドンヨクバールを退けた。リコとリアンは、ほんの少しの間だが親子だけの時間を過ごし、互いの気持ちを確かめ合う。再会を約束したリアンは、調査に旅立った。一方みらいたちは、眷属がレインボーキャリッジの魔法陣を劣化させるものだと知った。

第34話 初恋の味はイチゴメロンパン

まゆみが雨の日に出会った他校の男の子にひと目惚れ♥

まゆみに好きな男の子ができた。きっかけは、雨の日の下校時に転倒したまゆみの傘を他校の生徒である男の子が拾ってくれたこと。断られるのが怖くてまゆみは告白をためらうが、かなは「あきらめたら何も始まらない」とはげます。みんなに応援されたまゆみは、勇気を出して手紙を渡そうとする。だが、男の子には彼女がいた。失恋したまゆみ本人ではなく、かなが大号泣。ふたりを元気づけようとしたみらいたちの前にシャーキンスが現れる。恋愛を「愚かなこと」と見下すシャーキンスに反発する3人の力が結集して、ドンヨクバールを撃退。友情を深めたかなとまゆみの前に、イチゴメロンパンが降りてくる。それは、かなが信じる魔法つかいからの贈り物だった。

第35話

生徒会長にふさわしいのはリコとゆうとのどちら?

中学校の生徒会役員選挙が行われる。みらいたちにすすめられ、リコは会長に立候補し、同級生のゆうとも会長に立候補した。リコはみらいたちの応援で活発に選挙運動を展開。一方、ゆうとは人前で自分の気持ちを表現するのは苦手。花壇の手入れに力を注いだり図書館の本を整理したりする彼は、学校をもっと素敵な場所にしたいと考えている。その学校にベニーギョが現れ、ドンヨクバールが校舎を破壊しようとする。必死で花壇を守るゆうと。その姿を見たプリキュアたちも、学校を守るためドンヨクバールに立ち向かい撃退した。翌日の選挙直前の演説会で、リコは自分が何をしたいか考えずに立候補したことを反省し、ゆうとに生徒会長になってと応援した。

第36話

敵のスパイとは知らずに仲よしになっちゃった

デウスマストの眷属、オルーバは、部下の妖精、チクルンにプリキュアのことを調べさせている。みらいの家へ探りに来たチクルンは、ハチミツのにおいにつられてパンケーキをつまみ食い。それをきっかけに、スパイであることを隠してみらいたちと仲よくなった。チクルンに連れられて花畑を訪れたモフルンが、待ち受けていたオルーバに捕まってしまう。駆けつけたみらいにモフルンを返すオルーバは、ドンヨクバールを生み出した。暴れ回るドンヨクバールの前に立ちはだかったのはモフルン。その花畑は、モフルンが初めてみらいに連れてきてもらった思い出の場所なのだ。ふたりの思い出の場所を守るために、プリキュアたちは協力してドンヨクバールを退けた。

第37話

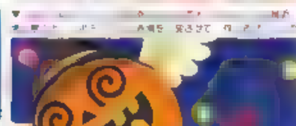
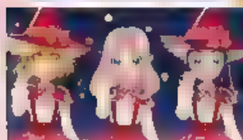
アイスドラゴンにため息をついてもらういい方法は?

魔法学校の教頭から、「校長が水晶と共にいなくなった」という連絡を受けて、みらいたちは魔法界へ急行。校長は「ぬっくい島」でピーカンみかんの収穫を手伝っていた。冷凍みかんはピーカンみかんをアイスドラゴンのため息で凍らせたものだ。ひゃっこい島へ向かった一行はアイスドラゴンにため息をついてもらおうとするがうまくいかない。そこへベニーギョが現れて、一行をドンヨクバールで襲撃。プリキュアは、冷凍みかんをまだ食べたことのないチクルンのためにドンヨクバールを撃退して、アイスドラゴンのため息で冷凍みかんを作る。チクルンは冷凍みかんのおいしさと、自分のために戦ってくれたプリキュアのやさしさに目を潤ませた。

第38話

カボチャドリが怖い顔で逃げ回っていた理由とは？

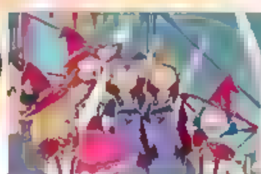
■魔法商店街の「カボチャドリ祭り」は、年に一度現れるカボチャドリを捕まえるお祭り。カボチャドリに近づくとお菓子に変えられてしまうので、捕まえるのは至難の業だ。捕まえた者は「至上の喜び」が入った金の卵をカボチャドリからもらえる。逃げるカボチャドリを追うみらいたちの前にシャーキンスが現れる。カボチャドリを力づくで捕らえようとしたことをシャーキンスに責められ、カボチャドリは追い回されるのがイヤだったのかも、と反省するみらいたち。だが、カボチャドリは虫歯に苦しんでいただけ。その虫歯を治したモフルンがカボチャドリから金の卵をもらう。卵は、お菓子を食べたあとに歯を磨くための歯ブラシが実る木のタネだった

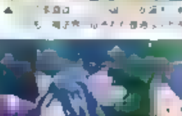
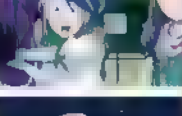



第39話 今日はハロウィン！

ふたつの世界の友達同士が仲よくなってハッピー！

「みんなが仮装するハロウィンは魔法つかいがいてもおかしくない」。そう考えたみらいの発案で、校長と教頭が引率する魔法学校の生徒たちが、ナシマホウ界のみらいが住む街のハロウィンのイベントへ遊びに来た。屋台エリアでは壮太やゆうとたちのクレープ店が人気で、みらいとリコ、補習メイトも販売作業を手伝う。みらいは魔法界とナシマホウ界の友達が仲よくする姿を見て大喜び。そこへベニーギョがドンヨクバールで襲撃する。プリキュアは、ふたつの世界がつながったハロウィンを守るため、ドンヨクバールを撃退。仮装パレードが始まり、手をつなぐ人々を眺めるチクルンはさびしげな表情を浮かべ、モフルンが差し出す手を握ろうとしなかった。



愛情いっぱいのおめでとう！ リコの誕生日！ 第40話

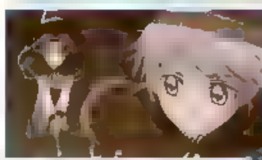
盛大な誕生日パーティーはうれしいけれど恥ずかしい

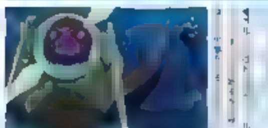
リコの母で、最近ナシマホウ界で活躍する料理研究家のリリアが、リコの誕生日を祝うためにみらいの家を訪れた。リコの父リアンと姉リズもやってくる。しかしリコは、誕生日会を開いてくれる家族の気持ちがうれしい半面、恥ずかしいのご様子だった。パーティーのあと片付けをしていると、プリキュアたちは、ベニーギスが作った空間に引き込まれる。デウスマストが着々と飲み込む様子を見せたシャーキンスは、いずれ混沌に消える命を祝福する意味はないと言う。それに反発するマジカルの思いに応え、ダイヤモンドザナイトが、シャーキンスが作った空間を消し去った。トンヨクバールを撃退したリコは、みらいの家から帰る家族へ感謝の気持ちを伝えた。

魔法学校へ放課後留学 第41話

オルーバが狙っているのはドクロクシーが残した本

最近、魔法界とナシマホウ界の距離が近くなった。そこで、みらいたちは中学校の放課後に魔法学校へ通うことにした。魔法学校の寮に泊まることになったみらいたちは、リコの部屋で補習メイトとパジャマパーティーを楽しむ。翌朝は規則に厳しい教頭が見逃してくれる。それは、校長が「にぎやかな夜を過ごすのも人生を豊かにする貴重な経験」と教頭を説得したからだった。その校長が出かける姿を見たみらいたちは、あとを追う。ドクロクシーが消えた場所までやってきた校長の前に、オルーバが現れた。校長を守って戦うプリキュアはトンヨクバールを退ける。オルーバは、用心ならドクロクシーの本をふき上げると去っていった。





第42話 チクルンにとどけ！想いをのせた魔法のプリン

チクルンが敵のスパイでもみんなの友情は変わらない

チクルンは仲よくなったみらいたちを傷つけたくないと思うようになった。そこでシャーキンスたちに「リンクルストーンを奪えばプリキュアを倒したも同然」と提案する。チクルンが盗み出したリンクルストーンとリンクルスマホンを受け取ったシャーキンスは、みらいたちに、「チクルンはスパイ」と明かし、約束を破って3人を攻撃する。それに怒ったチクルンがリンクルストーンとリンクルスマホンを取り戻してみんなは変身。「チクルンはこれからも友達」と言う3人と、それを聞いて喜ぶチクルン。友情でトパーズの力が増し、シャーキンスを撃退した。チクルンから事情を聞いたみらいたちは、そこに現れた開かずの扉を開けて妖精の里へと向かった。

第43話 いざ妖精の里へ！あかされる魔法界のヒミツ！！

デウスマストを追い払った生命の母、マザー・ラパーパ

みらいたちはアメジストの扉を通って妖精の里へ。チクルンは仕事をサボったのを女王に叱られたくなくてオルーバの言いなりになっていたが、女王はチクルンを心配していた。女王は、ことはの記憶にある花の海とは、かつて世界を覆っていた花畑だと言う。当時を知るレジェンド女王の話では、マザー・ラパーパを中心に平和なひとつの世界は、デウスマストの襲来で混乱した。デウスマストを追い払ったマザー・ラパーパは母なる星と共に大地を離れ、母なる星は魔法界になり、残された大地はナシマホウ界になったのだ。そこへオルーバによって解放されたスパルダが現れるが、プリキュアが追い払う。みらいたちはチクルンと再会を約束して帰っていった。

第44話

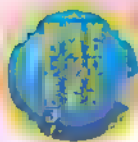
太古のマザー・ラパーパとフェリーチェとの関係とは？

ある日、[illegible]物から[illegible]、みらいたちの目前で紫の光が炸裂すると、3人は幼い子どもの姿になった。ことはの正体を探るオルーバが闇の魔法を試したのだ。モフルンは、行動もそのようにな[illegible]た3人を守るために孤軍奮闘。一方スパルダは、オルーバに頼んでバッティとガメッツを復活させる。モフルンが頑張る姿に[illegible]はげまされた3人は、プリキュアに変身[illegible]したことで元の姿に戻る。オルーバはフェリーチェを拘束して、彼女とかつてデウスマストと戦ったマザー・ラパーパとの関係を問う。オル[illegible]バが[illegible]の[illegible]と知ったフェリーチェは怒り、拘束を消滅させた。フェリーチェの力[illegible]何かを感じ取ったオルーバはスパルダとガメッツを連れて去っていった。

第45話

闇の魔法に関わるすべてはオルーバが仕組んだこと

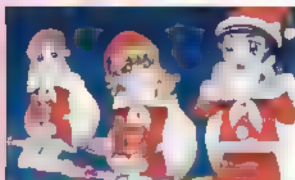
ナシマホウ界を訪れ、決戦を迎えたみらいたちに、オルーバが闇の魔法の真実を明かす。本当の役割は、デウスマストの眷属を復活させるもので、マザー・ラパーパと戦った大昔にオルーバが仕組んだこと。だが、クシィがたどり着いた闇の魔法は人間の心があるため「心の弱さが欠点のできそこない」とあざけるオルーバ。彼はさらに、フェリーチェはマザー・ラパーパの力を受け継ぐ器だと言う。フェリーチェは、人間の心は想像を超えた力をもつと反論。すべてを知ったバッティは闇の魔法の中枢を合体させたモットヨクバールでドンヨクバールを遂げる。一方でオルーバは、プリキュアに撃退される寸前、自分の身を挺してデウスマストの眷属を復活させた。

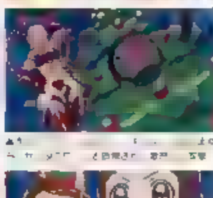


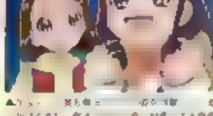
第46話

子どもにプレゼントを配るサンタは魔法つかいだった

クリスマスで賑わう魔法商店街を訪れたみらいは、「サンタクロースは魔法つかい」と知って驚く。魔法界の人々が手分けして魔法界とナシマホウ界の子どもたちにプレゼントを配っているのだ。腰痛のアイザック先生に代わって、みらいたちがサンタ役を買って出る。ナシマホウ界でプレゼントを配るみらいたちがほうきで飛ぶ姿を、かなとまゆみが目撃。そこへベニーギョが現れる。ベニーギョは、オルーバが言った「フェリーチェはマザー・ラパーパの力を受け継ぐ者」という言葉が真実か確かめようとしていた。だが、プリキュアが駆けつけてヨクバールを撃退する。3人から「魔法つかいであることは秘密」と聞いたかなは、誰にも言わないと約束した。



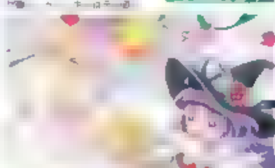


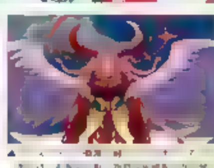


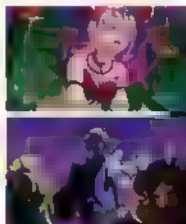
第47話

ついにデウスマストが降臨 目覚めると世界が一変！

魔法界の魔法学校に鐘が鳴る。予言されていた災いの前触れだろうか、やがて太陽が何かに隠され、ナシマホウ界と魔法界両方の空が暗くなる。ナシマホウ界の神社で初詣をしていたみらいたちに、ベニーギョが襲いかかった。不完全な形で復活したデウスマスト[illegible]と融合したベニーギョが巨大化して街を破壊。だが、明日を信じてあきらめないプリキュアの反撃で、ベニーギョと眷属の融合が解ける。ベニーギョが撃退されるも、デウスマストが降臨。倒したはずの眷属も復活してしまった。絶望的な中、ダイヤとエメラルドが輝くと、プリキュアたちは光のなかに包み込まれた。その日の朝と同じようにみらいは目を覚ましたが、窓の外には奇妙な景色が広がっていた。







第48話 終わりなき混沌！デウスマストの世界!!

ナシマホウ界と魔法界がひとつに混ざり合った!?

津成木町の人々が魔法を当たり前のように受け入れている。ナシマホウ界と魔法界が混ざり合っているようだ。ことはは、混沌に完全に飲み込まれる手前で、マザー・ラパーパの母なる樹が止めていると言う。校長は、混ざり合う世界をもう元に戻すと行き来できなくなると危惧する。だが、3人は明日を守るためにデウスマストを倒す決意を固め、校長は世界の人々に、プリキュアに思いを託そう、と語りかける。ふたつの世界を強引に混ぜ合わせて飲み込もうとするデウスマストに、プリキュアは、ふたつの世界がつながれるのが素敵、と主張する。ダイヤとエメラルドの精霊が秘密の言葉「ミトメール」を発すると、レインボーキャリッジの魔法陣が完成した。

第49話 さよなら…魔法つかい！奇跡の魔法よ、もう一度！

ふたつの世界を救って離ればなれのふたりが奇跡の再会

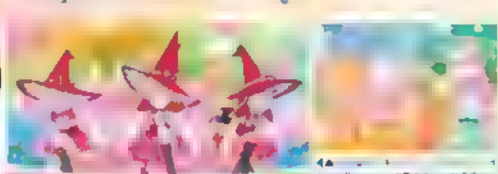
レインボーキャリッジの大魔法陣により、3人はプリキュア・エクストリーム・レインボーを放ち、デウスマストは巨大化して3人に襲いかかるが、混沌に飲まれたはずの地上に生命の光があふれ、そのエメラルドの輝きでデウスマストは追い払われた。ことははふたつの世界を元に戻す手伝いをするためにふんわりと別れ、みらいとリコも離れゆくナシマホウ界と魔法界に戻って離ればなれになる。モフルンも普通のぬいぐるみに戻った。数年後、大学生になったみらいがその枝を振って「リコに会いたい」と願うと、奇跡が起きる。木の枝は魔法の杖へと変わり、リコとことはが現れる。そしてモフルンも再び話せるようになったのだ。

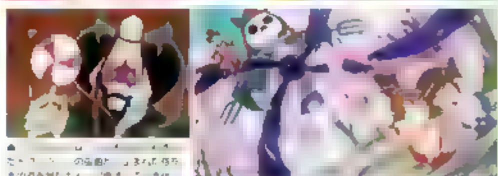
キュアップ・ラパパ！ 未来もいい日になあれ!!

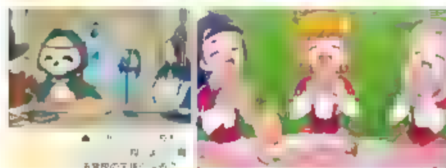
第50話

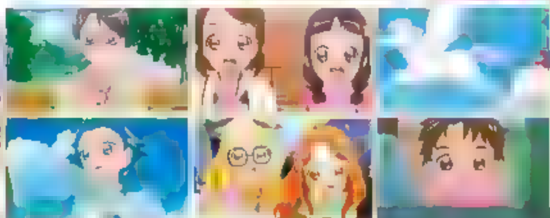
ドクロムシーを追いかけて ふたつの世界の仲間と再会

みらいたちは、イチゴメロンパンで再会をお祝い。昔のように楽しむために、ことはが魔法で3人を魔法学校2年生の頃へ変える。そこへドクロクシーの虫歯から生まれ、スイーツを独り占めするドクロムシーが現れた。イチゴメロンパンとことはの魔法の杖を取り込んだドクロムシーを追いかけるみらいたち。ドクロムシーに呑み込まれかけたチクルンがことはの魔法の杖を取り戻し、3人はプリキュアに変身。迷子のドクロムシーを不思議な少女が抱きしめてくれた。プリキュアの魔法で虫歯を治したことでドクロムシーはスイーツを味わえるようになり、感謝して改心する。仲よしの輪をつなげたいみらいたちは、みんなにイチゴメロンパンを配って回るのだった。









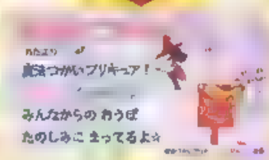
End-Card Gallery

一部の話数では、放送終了後にエンドカードが流れた。22話までは一部告知をのぞき、
視聴者から送られたイラストを紹介していた（視聴者イラスト回は未掲載）。
イラストは50話を宮本絵美子が、ほかすべてを演出助手の豊田百香が担当した。

第32話

第27話

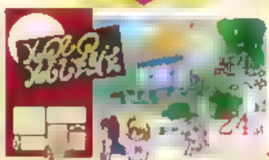
第22話



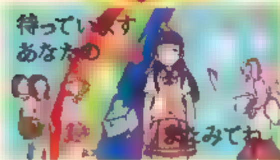
第33話

第28話

第23話



第34話



第29話

第24話

第35話

第30話

第25話

第37話

第31話

第26話

第42話

第43話

第44話

第45話

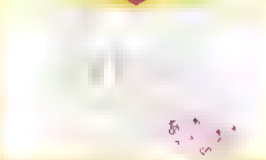
第46話

第47話

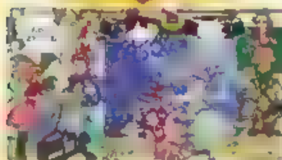
第48話

第49話

第50話



YouTube『3分でわかる魔法つかいプリキュア！』より



魔法文字

魔法界で使われている文字

a b c d e f g h i

j k l m n o p q r

s t u v w x y z

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

Movie Guide

ムービーガイド

『魔法つかいプリキュア！』の映画での活躍をチェックしよう

映画でも、友達同士の絆を見せてくれた「魔法つかいプリキュア！」。彼女たちが、2016年の春、秋の映画でどんな活躍をして、最新の映画でどんな晴れ姿を見せてくれたのかを確認してみよう

2016年3月19日に公開された『映画プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法！』は、歴代のプリキュアが全員そろう「プリキュアオールスターズ」シリーズを締めくくる作品となった。第1作『ふたりはプリキュア』から『魔法つかいプリキュア！』までの44人のプリキュアたちが出演。この映画のために作られた新曲7曲を含む計9曲の歌をスクリーンで披露する。『プリキュア』シリーズの映画では初となるミュージカル形式だったことも話題となった。

本作の物語は、『魔法つかいプリキュア！』のみらいとリコが、街中で「Go！プリンセスプリキュア」の春野はるかたちと出会うところからスタートする。みらいたちは、はるかたちの前で魔法を使ってしまうが、そこにプリンセスプリキュアたちが戦って倒したはずの敵ディスピアが現れる。みらいとリコは、はるかたちと共にプリキュアに変身して戦うものの、なぜかディスピアは姿を消し、新たな敵である魔女のソルシエールと、その手下のトラウーマが出現する。ソルシエールは彼女の亡くなった魔法の先生を蘇らせるために、「プリキュアの涙」を求めていたのだ。その後トラウーマの力で、キュアミラクルとキュアマジカルは別々の世界へ飛ばされてしまうが、先輩プリキュアたちが、ミラクルたちを救うべく力を振りしぼって加勢してくれるのだった。トラウーマによって先輩プリキュアたちが捕らえられてしまい、ミラクルとマジカルは彼女たちを助けるため奮闘していく。いつも一緒、ふたりが離ればなれになったとき、それでも相手を想い、立ち上がることができるのだろうか。友情や絆の強さについて、今一度考えることができる作品へと仕上がっていた

総勢44人のプリキュアたちが素敵な歌声を聴かせてくれる!!

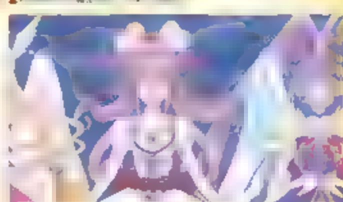
映画 プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法！

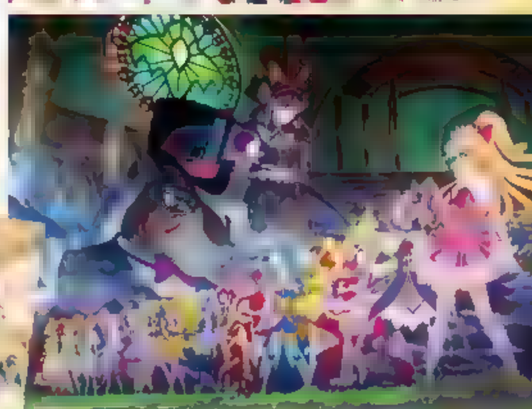
2016年3月19日公開

STAFF [illegible]

CAST [illegible]

どんなに離れていても ふたりの絆は消えない!





映画 魔法つかいプリキュア! 奇跡の変身! キュアモフルン!

『魔法つかいプリキュア!』の映画版では、なんとモフルンがプリキュアに変身した。本作の4人目のプリキュアとも言えるモフルンの活躍に、ミラクルやマジカルたちもビックリ!!

『魔法つかいプリキュア!』の映画は、モフモフモフルン「キュアモフルン!」の周りと共に、特徴的なポジションとしてミラクルやマジカル、フェリーチェをサポートしてきたモフルンがプリキュアに変身してしまうという、ほかに例を見ない展開が起こって『プリキュア』シリーズのファンを驚かせた作品だった。ドンヨクバールを撃退し、家に帰ろうとしていたみらいたち。そこへ魔法界の校長先生からミラクルライトが届けられる。ミラクルライトは100年に一度開かれる大魔法フェスティバルに参加するために必要なものだった。大魔法フェスティバルは100年に一度だけ目覚めて願いを叶えてくれるところ。みらいたちとモフルンがフェスティバルを訪れてミラクルライトに願いを込めると、なんとモフルンが願いの石に選ばれたのだ。モフルンが願ったのは、みらいとずっといっしょにいたいということ。願いを叶えるというモフルンに周囲が困惑していると、そこにダークマターが現れる。ダークマターはこの世界からすべての魔法つかいを消し去ろうとしているのだが、ダークマターにさらわれ、みらいたちと離ればなれになってしまうモフルン。モフルンを必死に探し、再会した際にはモフルンと一緒にいたい、と強く願ったみらいがピンチに陥ったとき、モフルンは大好きな友達を助けるために、キュアモフルンへと変身する。「誰かと一緒にいたい、誰かと一緒にいるから楽しい」という思いを丁寧に描いた本作。きっと見終わったころには友達の手を強く握りしめたくなるはずだ。

モフルンがプリキュアに大変身! 純粋な願いが奇跡を起こす!

同時上映

◆キュアモフルン

映画オリジナルのハートフルスタイル!

劇場版オリジナルの服装も登場!

◆クマタの影

◆ダークトライオン

◆ダークマタの影

◆ダークマター

歴代のプリキュアが勢ぞろいしていた春の映画がリニューアル！ 最近3世代のプリキュアたちが登場して、キャラクターの魅力や友情、活躍をさらに丁寧に描く!!

これまで歴代の「プリキュア」シリーズのプリキュアたちが登場して描かれた映画「プリキュアオールスターズ」が、2017年からは大胆なリニューアルを行った。登場するのは「Go!プリンセスプリキュア」「魔法つかいプリキュア！」、そして放送中の「キラキラ☆プリキュアアラモード」と[illegible]3世代のプリキュアたち。人数を凝縮したことで、今までの「オールスターズ」とは違った形で、プリキュアたちの交流を描いていく。

「キラキラ☆プリキュアアラモード」の宇佐美いちかは不思議な夢を見る。そこには謎の女の子が登場するが、ある日[illegible]世界で女の子と遭遇。桜が[illegible]という別の世界で暮らしていたサクラと名乗る女の子は「世界中のキレイなもの」を狙う魔天狗に襲われて離ればなれになった友達の[illegible]を助けるために、いちかたちの世界へやってきたのだ。[illegible]を助けるために必要なのは「[illegible]石」「スイーツ」のプリキュアたち。仲間たちと共にプリキュアを探していたいちかは、ついに「Go!プリンセスプリキュア」「魔法つかいプリキュア！」たちと出会う。そんないちかたちの前に魔天狗の手下である[illegible]、[illegible]、そして[illegible]が立ちはだかる——

[illegible]Go！Go!!」[illegible]の「プリキュアとレフィのワンダーナイト！」を手がけた[illegible]が監督を務めている。また、CGの割合も「オールスターズ」より多めとなっている。セルとCGの違いを活かした演出も巧みで、キャラクターの活躍以外にも映像面での見どころがたっぷりある。「魔法つかいプリキュア！」から「キラキラ☆プリキュアアラモード」へのバトンを[illegible]本作。息の合った戦いっぷりを見せる「魔法つかいプリキュア！」の頑張りを大きなスクリーンで堪能してほしい。

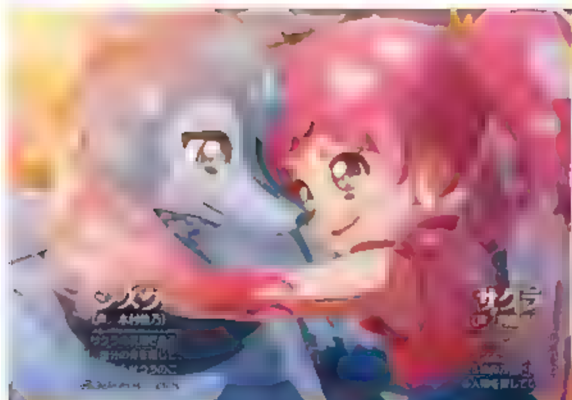
『オールスターズ』から『ドリームスターズ』へ 映画も新たな展開を見せる!!

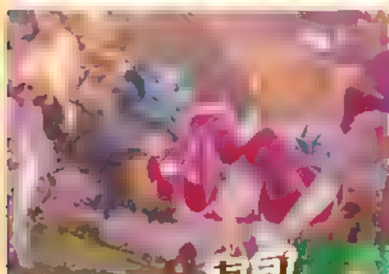
映画プリキュアドリームスターズ！

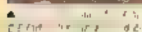
2017年3月18日公開

STAFF [illegible]

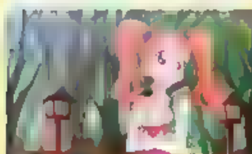
CAST [illegible]

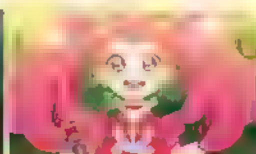


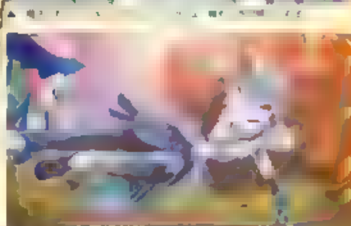




プリキュアがサクラの世界を友情パワーで守ってみせる!!







絶対にあきらめない
プリキュアたちのパワーが全開に！

【監督】

宮本浩史 Interview

Profile

「プリキュア」の今後の可能性を感じてほしいです

――監督としてのオファーはどのような形であったのでしょうか？

自分がやりたい企画を提出していたなかで、「次の映画をやってみたら」という話をいただきました。

――例年、春の映画は「オールスターズ」でしたが、今回は3世代になりましたね。

3世代にするのは、あとになって決まったことなんです。僕は「オールスターズ」の次作を、と話をもらっていたので、やる気は満々だったんですよ。でも、子どもたちが覚えていられる世代は限られているし、今観ている世代に今作を届けたいという気持ちも伝わってきたので、歴代するプリキュアを新シリーズを含めた3世代でやることになりました。僕も過去のプリキュアに好きなキャラクターはたくさんいますし、「オールスターズ」を愛してくれている人がたくさんいるのも知っていますが、[illegible]はありますが、そういう方たちにも面白いと言ってもらえるものを作れた自信はあります。

――人数が限られたことで当初想定していたストーリーに変化はありましたか？

「サクラ」という女の子が登場すること、サクラがシズクを取り戻す物語であることは変わっていませんが、それ以外はほぼ変わりました（笑）。でも、人数が限られたことで、プリキュアと妖精たちは全員セリフや目立つシーンがありますし、「Go! プリンセスプリキュア」のノーブル学園の生徒たちや、「魔法つかいプリキュア！」の魔法界の人々を登場させることができました。

「オールスターズ」では、全員集合するための理由付けが、どこかへ招待されるなど受動的なものが多かったんですよね。でも、今回はプリキュアたちが自ら[illegible]かを迎えに行くという能動的な形にしたかった。それは僕自身が待っている状況を好きではないからです。それから今回の映画は、序盤は「キラキラ☆プリキュアアラモード」の劇場版のように始まります。でも、自分たちだけではどうしようもなくて、仲間集めをするようになる。仲間が増えて力を付けることの快感や心強さを、子どもたちにも感じてほしかったんです。また、時間の限界性を取りたかったという事情もあります。「Go!プリンセスプリキュア」では[illegible]ではるかたちがドレスアップキーを返してしまっているし、「魔法つかいプリキュア！」ではみらいたちが大学生になっていますから、その能力も[illegible]と考[illegible]てしまう。それを僕はやめたかったんです。そこで本作では、[illegible]時空を[illegible]能力を持たせることにしました。本作は「Go!プリンセスプリキュア」と、「魔法つかいプリキュア！」のTVシリーズのどこかの時間軸に行ったと考えてもらえたらと思います。ちなみに「魔法つかいプリキュア！」は、とある経緯からある話数の間という、かぎられた時期のなかでしか成立しないんです。「Go!プリンセスプリキュア」も調べれば、ここにしか入らないというポイントがわかるので、ぜひ調査してほしいですね。

――となると、「魔法つかいプリキュア！」の50話で、みらいたちがいちかに会っているというのは…。

あれには僕も驚きました（笑）。でも、[illegible]から、子どもたちにわかりやすくバトンタッチを示すものだから、整合性については考えなくてもいい」と言われたので、そこは気にしていません。

――今回、「サクラ」というオリジナルキャラクターを登場させた意図は？

大なり小なり「プリキュア」の新しいファンを開拓したいという思いがあります。今の若い子はSNSですぐ情報を共有できますから。そういう子たちが「あの映画はすごかった」とか、「見たことがない」と言ってくれたら、「プリキュア」を知らない世代も興味を持ってくれるかもしれないと。もうひとつの要素では新規のキャラクターが登場しても面白いと思えるものにしたかったんです。

――本作は、映画恒例のミラクルライトを、実際に戦いの場面以外でも使っているところも新しいポイントと感じました。

映画館で観ているとわかるのですが、子どもたちはミラクルライトを振るときに、すごく必死なんです。彼女たちにとって、プリキュアは憧れの存在[illegible]。だからこそ、より彼女たちにプリキュアとつながってほしいと感じて、今回はスクリーン内のキャラクターからの語りかけを多めにしました。

――CGに変わるシーンで、あえてプリキュアたちが自分たちの容姿の変化に気づくのも面白い演出ですね。

CGをセルの見た目に寄せて、違和感なく融かせようかと考えた時期もあったのですが、[illegible]から、それぞれのよさを活かそう」という[illegible]セルの作画は作画で面白いことをやろうと、しっかりと演出を分けました。

――今作はCGパートもかなり多くなったと思いますが、これまで以上にCGパートで挑戦したことはなんですか？

これまでのCGではなかなかできなか[illegible]ると思います。セルの作画は「キラキラ☆プリキュアアラモード」に寄せているのですが、作画とCGを完全に分けるということで、CGパートでは今まで[illegible]たことがな[illegible]させています。今回、登場するキャラクターがみんなボケ倒すので、子どもたちにはぜひ心のなかで「なんでやねん！」とツッコんでほしい（笑）。これは見慣れて[illegible]CGパートだからこそできる面白さ[illegible]ます。

――CGの動きといえば、鳳天狗がかなりなめらかに動きますよね。

鳳天狗の動きには、かなりこだわりました。CGとはいっても、アニメ作品の場合、1秒あたり24コマのフルコマを使って動いていないことが多いのですが、鳳天狗だけはフルコマで動いている。そうすることで、動きは"ぬるぬる"しますから、[illegible]て動くだけで空気が変わるんです。不気味な感じで、鳳天狗の[illegible]らしさを表現できたのではないかと思います。

――改めて振り返って、今回の映画を作ってみて、感想を教えてください。

セリフで語らせるところと、絵で状況描写するところを完全に割り切って作るという試みもしました。[illegible]絵で[illegible]せたほうがいいシーンは、あえてセリフを入れていません。『映画Go!プリンセスプリキュア Go!Go!!豪華3本立て!!!』で『プリキュアとレフィのワンダーナイト！』を作ったときに、プロ[illegible]のように倒して「ストライク！」と言う[illegible]たのですが、子どもたちにはわかってもらえなかったんですね。小さな子どもを言葉で笑わせるのは難しいんだなと思って、説明を極力排除して、[illegible]てもらえるようにしています。それから今回、モノローグをかなり効果的に入れました。僕の映画においては、モノローグでだいたい言いたいことを言っているので、そこに注目してほしいですね。そして、セリフを聞いて思ったことを各自で持ち帰って、[illegible]ったりすると[illegible]と思えるものを感じてもらえたらうれしいです。

――では、最後にファンへ向けてのメッセージをお願いします。

僕はこの映画を、〈『プリキュア』の映画はこうでなければいけない〉という固定観念に穴を開けられたら」という思いで作りました。「プリキュア」の映画はまだまだ進化していける。可能性が広がっていけるタイトルなんだと、少しでも感じてもらえたらうれしいです。個人的には、50人のプリキュアがいても面白いと[illegible]自信はあるので、いつか挑戦してみたいです。

キャラクターを演じたキャストが本作への熱い思いを語る！

高橋李依

キュアミラクル 役 朝日奈みらい

私は世界で一番まほプリが大好きです！

「私の声がしそう」だと感じたみらい

――1年間お疲れさまでした。『魔法つかいプリキュア！』（まほプリ）の放送が終わった今の率直な感想は？

49話で終わっていたらさびしくて仕方なかったかもしれないけど、[illegible]な50話があったおかげで、今は「楽しかった」という感情のほうが強いです。1話の[illegible]に戻るような50話が放送されたので、幸せな1年だったなと感じています。

――オーディションは、ミラクル／みらいとマジカル／リコ[illegible]だったと聞きましたが、最初からミラクル／みらい役を受けたかったのですか？

はい。スタジオでのオーディションは、みらいとリコでの掛け合いもあって、自分の番が終わってからも、ひとり分だけリコを受ける方の相手がいない時間帯があって、たまたま2回分みらいのお芝居をしたことを覚えています。みらいを2回演じたあと、「せっかくだからリコも受けてみる？」と声をかけていただいて受けたのですが、自分的にはその時点で「これは[illegible]みらい役だな」と感じるほどの手応えのなさでした（笑）。

――ミラクル／みらいとしての手応えはあ[illegible]？

受かった今だから言えるんですが、じつは最初に[illegible]のイラストを見たときに「私の声がしそう！」って思っていたんです。みらい役に決まらなかったら、私は今後プリキュアを演じることはないだろうなと思えるくらいに、みらいとの居心地のよさを感じていて。

――実際に合格の知らせが来たときは？

帰宅途中で連絡を受けたので、本当に「寝耳に水」状態でした。これまでも何回か『プリキュア』のオーディションを受けさせていただいたことはありましたが、まさか合格の連絡がくるとは（笑）。

――オーディションの段階で、ミラクル／みらいの印象はどうでしたか？

[illegible]ては人一倍興味を示して、ワクワクしていることを[illegible]共有したがる、みらいみたいなところがあったらしくて、自分が感じている「楽しい」をいち早くみんなに伝えた[illegible]の。そんな女の子なんだろうなという印象を、自分と重ねながら持っていきました。実際に本編の[illegible]リコと出会ったばかりのみらいに対する印象は、ほとんど変わりませんでした。[illegible]よりも「ワクワク」が押しつけがましかった」と困っていたのですが（笑）、『プリキュア』の世界だったら、それがプラスに働き続ける女の子になれるのではないかと感じて、こんなふうになったらいいなという思いを込めました。

――ミラクル／みらいは『プリキュア』の座長[illegible]ですが、プレッシャーは感じましたか？

じつは座長としての不安よりも、ちゃんとみらいをお芝居で表現できるかということばかり考えていました。みらいを通して伝わってくるワクワクや、新しい現場で新しいスタッフやキャストの方とお芝居ができるワクワクが強すぎて[illegible]重みを感じていませんでした。[illegible]みらいが一緒[illegible]か、[illegible]プリキュアのキャストのみなさんから「プリキュアは必ずみんなの[illegible]てくるんだよ」と聞いていて、これぞその一歩なのかなと。私がみらいになれたというより、みらいが私の隣に来てくれたという[illegible]が強かったんです。

――みらいの印象に変化はありましたか？

変化を感じたのは、校長先生に「どんなことがあっても、みんなと一緒にいると決めたから大丈夫です」と言った20話です。あのときに「みらいはどのくらい先まで覚悟したんだろう」と考えるようになって。みらいは理屈がなく突っ走ることはありますが、何も考えていないのではなくて、何かを感じ取ったうえで自分の判断で行動している子だと思ったんです。そこから「みらいの感覚」を時[illegible]ディレクター[illegible]とも話し合いながら突き詰めていきました。いつかリコとはーちゃんと別れる日が来ることを、きっとみらいは誰よりも早く受け止めてくれたんだと思います。

――みらいはリコのような「立派な魔法つかいになる」という目標を持たない子ですが、それは決して先が見えていないというわけではないんですよね。

直感的な子ですが、意外と視野が広いんですよね。自分に目標がないことって、普通はマイナスにとらえがちですけど、みらいはプラスにとらえられる。3話や16話の「夢や目標がない」といったセリフも、反省とか自嘲なのかと思ったら、[illegible]ないんだよねというだけの話で、ひと言ひと言でみらいの考え方が発見されていくのが面白かったし、その言葉がパズルのようにつながっていって、「主人公」という型にくくられたくない、ひとりの魅力的な女の子だと思っています。

みんなのことが大好きなみらいを表現できるように

――みらいを演じるうえで、どんなことを心がけましたか？

とにかく、私もみんなを大好きでいることです。[illegible]られて、リコ、はーちゃん、モフルン、[illegible]お母さん、おばあちゃんなど登場キャラクターはもちろん、[illegible]の現場が大好きになっていて。みんなのことが大好きなみらいを演じる[illegible]た。最初[illegible]中学2年生のなかでは幼いほうかなという印象で、すごくかわいいなと思ったんです。そして、オーディションの段階から「みらいはふわふわとかわいく」と言われていました。キャラクター[illegible]

宮本佳那子さんの話し声が合うようにと思うと、自分のなかでは限界に近かった。[illegible]感が生まれて、今まで、みらいくらいの高いトーンで演じることがなかったので1年前の放送開始告知CMを観ると、「すごく頑張っているなぁ」と自分でも恥ずか[illegible]高い声を出せるようになったのは自信[illegible]で表現できたことです。表情として[illegible]ジティブな思いの種が、とくにたくさん見[illegible]ます。

——ミ[illegible]登場[illegible]は、みらいとな[illegible]を考えて[illegible]

初期の設定は、背丈が高くなることをすごく意識[illegible]でも[illegible]の発言が背丈のみ[illegible]の強さにな[illegible]別れた時に[illegible]やめました。

——プリキュアといえば、変身や名乗りや[illegible]魔法[illegible]印象的です

[illegible]主[illegible]役で[illegible]せて[illegible]プリキュアのみなさんが名乗っているのをうしろから見ていたのですが、プリキュ[illegible]うらやましくて。私にとって、その役柄でのプリキュアは「夢の世界」に近いものがあったので、ふと、同じ職業の方が名乗りをあげているんだ、というのを実際[illegible]叶わないという感覚では[illegible]ものでした。

——ちなみに、自分とミラクル／みらいとで似[illegible]ところはありますか？

1年を通して、みらいがだいぶ自分に近寄ってきてくれたこともあって、似すぎているというか、似ていないところを探すほうが大変かもしれません。

——では、似ていないところは？

[illegible]私はあそこまで泣かないですね（笑）。1みらいは泣き虫というわけではないから、あんなに激しく泣くのは衝撃的でした。

プリキュアは笑顔をつなぐ存在だと思う

——50話を通[illegible]お気に入り[illegible]

[illegible]話と49話です[illegible]っています。この2話は「別れ」を描いて[illegible]その場[illegible]た。今の時代は、SNSや携帯電話などで簡単につながることができて、永遠の別れなんてなかなか感じられないものですが、永遠の別れに直面してしまった中学生は、どんな行動をするんだろうと。

——49話は、リコとの別れはもちろん、モフルンとの別れでもありましたね。

「映画魔法つかいプリキュア」[illegible]とグで語りかけていると思うと、とにかく泣けましたね。あのシーンは、秋の映画[illegible]

——49話といえば、みらいがまりなから[illegible]きのような[illegible]も印象的でした。

正直なところ、あのセリフ、よく言ってくださったなと…。監督の[illegible]さんは『ふたりはプリキュア』のころから演出を担当されて[illegible]とても厳しいベテランの監督の方で、「セリフをもっときちんと言いにして」とか「マイクに近すぎる」とか、役者としての姿勢や、声優としての技術まで、恥ずかしながらたくさん叱られていました。なので、[illegible]って怒られるんじゃないかと、お芝居がすべて終わったあとに「やばい」と思ってしまったんです。ただ、49話は泣きっぱなしのシーンだったこともあって、思いがあふれると、あの声量が[illegible]で、実際[illegible]のテイクが使われるかはわかりな[illegible]ーズや呼吸で芝居をさせていただいたの[illegible]ら、ものすごく気づかってくださったと思うんです。みらいとして思いを吐露することだけに集中させてくださった限りのみなさんには、本当に感謝しかないです。

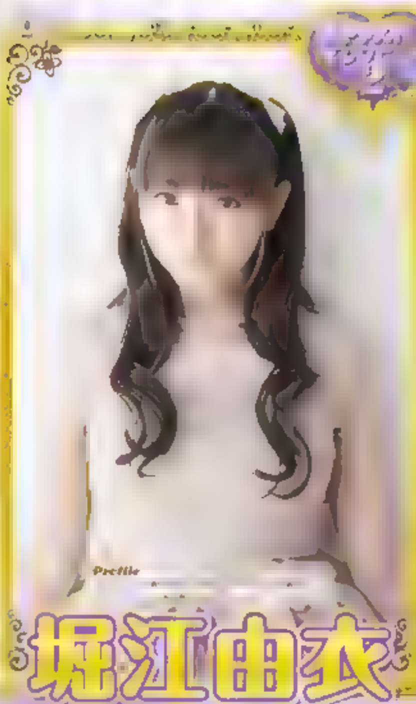
——みらいの口元だけを映すという演出も細かったですね。

そのシーンは画面の前[illegible]さんを意識にこだわって撮ってくださったシーン[illegible]

[illegible]

——最終話を迎えて、今[illegible]

[illegible]



堀江由衣

キュアマジカル　十六夜リコ

『魔ツリ』を来年も再来年も[illegible]てもらえたらうれしい

リコのツンツンした面のバランスが難しかった

――まずは1年間お疲れさまでした。全50話すべてを走りきった感想を教えていただけますか？

まず、ケガや病気をしなくてよかったなと思いました。1年という長丁場なので、最初はそちらを気にかけていたんです。でも元気に無事に終えることができて本当によかったです。

――アフレコもすべて終わった今、「魔法つかいプリキュア」が終わったという実感はありますか？

正直なところ、終わったという実感はあまりないんです。みんなが[illegible]打ち上げがあったり新年会があったりイベントがあったり、集まる機会があったので、始まった時と比べてはだいぶ時間が経った感じがありましたが、50話は「こういうドタバタが今後も続いていくんだろうな」という感じなので、終わった感じは全然していません。

――オーディションの時期まで振り返っていただきたいのですが、堀江さんはオーディションでは最初からマジカル／リコ役で受けたのですか？

最初はほとんど資料がなかったこともあって、ピンク（ミラクル／みらい）を受けました。掛け合いでのオーディションだったのですが、そこで「リコもやってもらえませんか？」と声をかけていただいたんです。掛け合いですから、ミラクル／みらいを演じたときに相手役としてリコがいて、そのときは「こういう子[illegible]」が、どんな[illegible]たのですが、いざリコを演じるにあたり、[illegible]を見てみると[illegible]るけど、じつはクールを装っているだけで不器用な女の子なんだなという印象を受けました。

――実際、マジカル／リコ役でオーディションに受かったと連絡をもらったときの感想はどうでしたか？

[illegible]リコのほうが好きかも、と思ったんです。好きなキャラクターを担当させてもらえると聞いて、うれしかったです。

――「プリキュア」は長期にわたる人気シリーズですが、シリーズの一員となったことで、プレッシャーのようなものは感じましたか？

先ほどもお話ししたように、役を演じることのプレッシャーもありましたが、まず[illegible]ました。それから、小さな子どもたちが観る作品なので、その子たちが楽しめな[illegible]「[illegible]」[illegible]うしよう、みたいなドキドキ感はありましたね。でも、1話を観て、絵もかわいいしお話も面白かったので、それ以上の心配はありませんでした。

――マジカル／リコを演じるにあたって、どういったアプローチをしましたか？

アフレコが始まる前に「リコは素直になれなくて、強がってしまう[illegible]コンプレックスだけど、みらいと触れ合うことで変わっていく[illegible]」と[illegible]。また、[illegible]のかなとちょっと構えていたのですが、1話でほうきに振り回されながら飛んでいくシーンを観て、クールぶってはいても、表情は崩れるし、感情の振り幅もちゃんとある子なんだとわかって、少し安心しました。リコのコンプレックスって、[illegible]なんですよね。[illegible]や、劣等感になって頑なになってしまう[illegible]感情移入はしやすかったです。シリーズ序盤のリコは「立派な魔法つかいになること」が目標で、理想の大人や魔法つかい[illegible]それになれない自分へのもどかしさや[illegible]

――話し方について、スタッフからのオーダーはありましたか？

[illegible]こうしてほしいという話ではありませんでしたが、最初のころはリコとみらいとの距離感やさじ加減みたいなものを[illegible]。ふたりは少しずつ打ち解けていくので、打ち解けすぎてもいけないし、かと言って[illegible]リコはみらいのことを嫌いなのかと思われてしまいそうで。自由にやっているみらいにあっさりと追い抜かれてしまう[illegible]かゆさ、悔しさ、ヤキモチのような気持ちを表現するのは難しかったです。

――「プリキュア」といえば、変身や決めの技、必殺技の叫びも欠かせません。実際、変身したり叫んだりしてみたときにスカッとするものはありましたか？

[illegible]たり、中盤からはフェリーチェも加わって、最終回の変身（キュアモフルン）ではモフルンも入って4人[illegible]ピッタリ合うと気持ちがよかったです。『映画プリキュアドリームスターズ！』では、最初のころよりも声がそろっていて、長くやってきたんだなと[illegible]

リコはみんなに共感してもらえる子

――全50話の放送が終わりました。改めて振り返ってみて、マジカル／リコへの印象に変化はありましたか？

[illegible]あまり変化は[illegible]っているんです。リコはただ、みらいと出会[illegible]ところは[illegible]なかっただけなんです。リコが本来持っている[illegible]素直さ[illegible]みらいたちと触れ合うことによって解きほぐされて出てきた印象です。

――先ほど「リコのコンプレックスは魔法界の人だけのものではない」とおっしゃったように、マジカル／リコと堀江さん自身も似ているところは多そうですね。

そうですね、私にかぎらず、リコの場合は観てくださっているみなさんにも共感してもらいやすい[illegible]と思います。[illegible]であれば[illegible]ところが似ているかもしれません。実家暮らしですし[illegible]りみんです（笑）。

――全50話を走り抜けた今は、みらいやはーちゃん、モフルンたちには、どんな印象を持っていますか？　それぞれのキャラクタについて教えてください。

　みらいは天才肌なのか、いきなりすごいことをしたりする子という印象です。でも[illegible]すぐできる[illegible]ぜんぶうなんだなと感じています。モフルンは、もうそこにいるだけで魅力的ですよね。ずるいとしか言いようがないです（笑）。声も動きも、モフモフ具合も全部がかわいくて。今モフルンで一番気になるのは、素材は何かということです（笑）。はーちゃんは、成長著しいこともあって、いろんなことを経験してる感じがします。純粋無垢ですし、成長が早すぎるがゆえに現代のことを知らないこともあるけれど、それが原因で生まれるトラブルもかわいい。マザー・ラパー[illegible]存在もあるかで[illegible]を理解する[illegible]感じました。[illegible]さんの声の力があるのかもしれませんが、とにかく大きくなったなぁという印象を持っています。

――どのエピソードも印象的だったと思いますが、全50話のうち、とくに印象に残っているエピソードを今、挙げるとしたらどの話でしょうか？

　とくに好きだったのは25話と34話と、44話[illegible]49話も忘れられません。25話は、みんなで海に行ったエピソードで、衣装チェンジがあかったのがうれしくて。水着はもちろんですが、カジュアルな服も制服も普段とは違っていて、スタッフの方のリコたちへの愛情を感じました。子どものころにあまりできなかった「海に行ってみんなで遊ぶ」というのを体験できたため[illegible]うれしかったです。[illegible]まゆみちゃん[illegible]した。44話は、皇帝に入る前の姿が小さいままで[illegible]すごく[illegible]です[illegible]回です。

――49話については、1月に行われたBlu-ray第1巻の発売記念イベントでも、ファンの方に向くプッシュされていたそうですね。

　なんのために『まほプリ』を1年間観てきて[illegible]私はあの回のためだったんじゃないかと思うんです。それもあ[illegible]イベントでは[illegible]ました[illegible]（笑）。じつは、私はモフルンはぬいぐるみに戻っちゃダメだろうと、ずっと思っていたんです。それは[illegible]つかいプリキュア！[illegible]キュアモフルン！」のときも同じで、すごく悲しくてたまらなくて、子どもたちに観せてはダメだろうと思っていたんですがな[illegible]それをそこまで[illegible]目から愛が消えていく様子が本当に悲しかったんです

――でも、49話のBパートではリコやモフルン、はーちゃんが戻ってきて、50話はとても明るい展開になりました

　私的には、バッティさんやヤモーさんが救われていてよかったなという気持ちです。大きくなったリコもかわいかったですが[illegible]キリっとしすぎかなぁとも思って、[illegible]中学生[illegible]が個人的には好きです（笑）。[illegible]力[illegible]魔法学校[illegible]の魅力なのかもしれませんが

リコやみんなの日常はこれからも続いていく

――1年という長きにわたるアフレコだったと思いますが、印象に残っている出来事はありますか？

　『プリキュア』の現場は本当に家族で、みなさんがやさしくしてくださるんです。ですから、居心地もすごくいい現場だったなと思っています。ちょうど私のお誕生日のとき、みなさんから冷凍みかんをもらったことはすごく印象的でした。たまたま[illegible]に冷凍みかんにハマっていたのですが、夏の終わりになると店頭から姿を消してしまって、自分が出演するラジオ番組でも「冷凍みかんがなくなった」と話していて、それを聞いてくれたりーちゃん（高橋李依）が「冷凍みかん便」をくれたんです。名前とか住所を書いてくれたら届くようにしますからって。それが手書きだったんですよ。もったいなくて[illegible]結局[illegible]かは困ったのですが（笑）。今でも食べきるのがもったいなくて、ひとつだけ冷凍庫のなかに残っています

――全50話が終わった今、マジカル／リコにひと言、声をかけるとしたら、どんな言葉になりますか？

　[illegible]けて、彼女たちの生活は今後も続いていくと思うんです。リコもこの先、魔法学校で学級崩壊とか起きちゃうかもしれな[illegible]ながら、生徒たちと向き合っていくんだと思います。そう考えると、今は「ひとまず[illegible]、1日1日を頑張ってね」と伝えたいかな

――1年間マジカル／リコを演じてきた堀江さんにとって、『プリキュア』とはなんですか？

　それは『魔法つかいプリキュア！』しかないです。私にとっての『プリキュア』は『魔法つかいプリキュア！』以外の何ものでもないです。もうタイトルも、『魔法つかいプリキュア！』でなければ、しっくりこないくらいに、私にとっての『プリキュア』のすべてになっています。うちの子が一番かわいいって、こういうことを言うんですね。

――最後に、1年間『魔法つかいプリキュア！』を応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

　『まほプリ』は、とにかくいいお話だったと思います。それぞれ[illegible]キャストのみなさんも素敵な方ばかりでした。個性的な話が見どころ満載で、あげればキリがないくらい。全50話それぞれに[illegible]好きな[illegible]るほどです。ですから、今後も『プリキュア』は愛していくと思いますが、私としては『まほプリ』をぜひ、みなさんの心のなかで一番の『プリキュア』にしてもらって、Blu-rayやDVDなどで振り返ってもらえたらうれしいなと思っています。それ以外でも、たとえば[illegible]と思います。そうやって長く楽しんでいただきたいですね。そして、いつか『魔法つかいプリキュア！[illegible]ターンズ』でお会いしましょう。ありがとうございました

早見沙織

キュアフェリーチェ　花海ことは

物語の進展と共に決まったことはの性格

——1年間の物語が終わりました。終わ[illegible]

全然そんな気がしていないんです。アフレコは終わって[illegible]はなくなるんだとさびしさ[illegible]はあったのですが[illegible]すが何[illegible]に顔を合わせているので、まだ作品が続いて[illegible]

——オーディションは、ミラクル／みらいとマジカル／リコがメインの展開だっ[illegible]

そうですね。オーディションを受ける際は、ミラクル／みらいか、マジカル／リコかという感じでした。オーディションのときの記憶は少し曖昧なのですが私はミラクル／みらいとマジカル／リコの両方を受けて、その後に「もう一度役[illegible]フェリーチェ／ことはに出会いました。そのとき見たのは、赤ちゃんと成長したところ、それからフェリーチェの姿だったかな。ただ、ことはは成長するキャラクタ[illegible]ションの台詞では、たしか面倒見がよくてみ[illegible]、お姉さん的なキャラクターになると聞いた気がします。実際の性格は、アフレコをしながら決めていったようでした。みらいと[illegible]動かしやすいということもあったのかな。私も演じたことのないタイプのキャラクタ[illegible]えています

——はーちゃんからことは、そしてフェリーチェへと、ある意味わかりやすく成長す[illegible]は、どのようにアプローチしましたか？

つ[illegible]で、0歳で生まれて、大まかに言うと1歳、3歳、6歳、14歳というイメージなんですね。さらにフェリーチェでタイプが変わります。[illegible]部分はあります[illegible]を見ながら考えて[illegible]関しては、「変身後はお姉さんっぽくなります」と聞いていて、実際にことはのときとガラッと雰囲気が変わるので、どの部分でことはとフェリーチェがつながっているのかなと考えました。[illegible]SDにそのことについて相談したら、中身は別人ではない、と言われたんですね。フェリーチェになって凛とした雰囲気が[illegible]いやリコ、モフルンを守れる人の姿」なのだと。プリキュアになったときにしか[illegible]してみんなを守るという場面があり変化に結び[illegible]と言[illegible]だけて、ようやくきた感じです

[illegible]ちゃん[illegible]と、表情が変わるくらいなので、それをひとつひとつ新鮮[illegible]ことを心がけました。15話では、学校で七変化をするのですが、こんなにもバリエーションが豊かなキャラクタ[illegible]合わせていかないと、と考えて、かなりドキドキしました。アフレコ前には胃が痛くなったくらいです。23話の「これからもよろしくー　おかえり、はーちゃんー」のあたりからは、またガラッと輝き方が変わって、場を引っかき回すムー[illegible]しましたね。でも、自分が楽しい気持ちになるのが一番だと思ったので、現場の空気[illegible]す。三塚SDは「こうしてください」とか「絶対こうじゃなきゃダメです」とは言わない方で、自分が作っていったものに関しては、[illegible]すごく楽しく演じることができました。

——早見さんは、はーちゃんが登場する話、1話でリコが[illegible]

あの時、48話[illegible]んですよね。気がつけば、OPの映像のなかにもいて、ちゃっかり重要なシーンに登場するキャラクン[illegible]ったです。じつは、あれはスタッフの方のご厚意なんです。これからレギュラーで関わることになる作品だし、途中から参加をすることになると私が緊張するだろうと気づかってくださって、[illegible]で顔合わせも兼ねて収録[illegible]う形で録音を振ってくださったんです

——プリキュア役に決まったということ[illegible]

[illegible]くて、一方で実感もあまりなかったんです。台本をいただいて、表紙にプリキュアのみんなのイラストが描いてあるのを見て、「あ、『プリキュア』の台本だ」とようやく実感した感じで。もちろん、出演はしているのですが、「自分が知っている『プリキュア』なのかな？」という疑問は[illegible]るのを知ったり、はーちゃんのお面をお祭りで被っている女の子を見たりして、[illegible]

涙が止まらなかった49話のみんなとの別れ

——本作では、変身時の名乗りや決めの魔法の叫びも特徴ですよね。実際に演じてみて、いかがでしたか？

名乗りや決めの魔法は毎回収録しているので、先週と違うなと感じることもありました。自分の名乗りで、その日のテンションがわかったりして。[illegible]になればなるほど、思い入れがありすぎて力が入りすぎて[illegible]不思議な空間に行ってミラクルに変身するシーンを観たときは、忘れていた時の

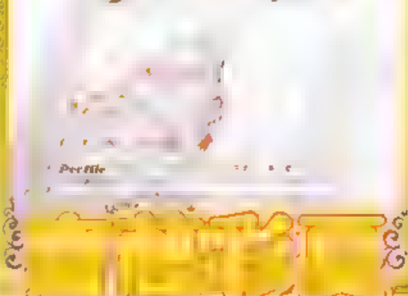
真剣りな表[illegible]泣しまし[illegible]
は[illegible]
「みんなで[illegible]すが[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]に働くなる気持ちかわれました
[illegible]
「ワクワクもんだ」というヴセは
ふたりの目でられて大きくな[illegible]
[illegible]出てしますよね[illegible]は
ちゃんの育ち方、育てられ方は全部回
ていたし、はーちゃんは基本的に素直で、
全部まっすぐ回収していくので、すごく
わかりやすかったですね

――そんなフェリーチェ[illegible]ことはと自分
[illegible]
[illegible]ちゃんはとくに[illegible]ではありま
せんでしたが[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ます。それから[illegible]
へていると、[illegible]
[illegible]
すが、は[illegible]
べるので、すごく素敵だなと思います。
フェリーチェのように[illegible]
まっすぐに引っ張っていく強い女性とい
うのは、私の憧れの対象です。フェリー
チェ[illegible]なんですが[illegible]
[illegible]

――[illegible]
まずは45話。これはプリキュアらしさ
が詰まっている回だと思います。校長先
生が[illegible]クシィさんが書した本を見つけて
彼の思いを知るという、あったかい回で
す。バッティさんや敵方の魅力もすごく
素敵に表現されていました。はーちゃん
[illegible]はトクロウ[illegible]さんと[illegible]たあと
[illegible]
それから[illegible]ダイヒノア作業[illegible]させてもらっ
たのですが、そのときも[illegible]
て、とか[illegible]んですよ
みらいがキュアップ・ラパパ！[illegible]
[illegible]
す。台本にも何回言うんだろうと思うく
らいに書いてあって、それを一言一言
彼ちゃんが言うたびに泣いてしまって。
[illegible]
ルンは大切な[illegible]でしょ」って言って[illegible]
てくる[illegible]
て本当に最高で[illegible]
[illegible]
きてみんなが[illegible]
[illegible]
まくりたかったですが[illegible]
[illegible]
ね。モフルンは[illegible]
[illegible]
[illegible]
で、うわああって。さらに「みんな大
好き[illegible]
た」となりました（笑）。でも、来週も
収録があると告げられて、一体どうなる
んだろうと思ったのですが、50話は「ま
ほプリ」らしい大団円だったなと[illegible]
[illegible]
[illegible]
も書くなりすぎない、そこが[illegible]
[illegible]
プリキュアアラモード」へ[illegible]
の宇佐美いちかちゃんが登場[illegible]たときは
[illegible]担当の方がいちかちゃんの登場シー
ンに「プリアラ」のBGMを乗せてもらい
いか相談されていて、新しい作品への受
け継ぎが素敵だなと思いました。

大好きとありがとうを はーちゃんに伝えたい

――[illegible]
スタッフの皆様があの時間に反映して
れてすごく[illegible]
その前だけ、みんなが[illegible]
[illegible]
した。それから、女の子たちが[illegible]
打ち明けたのは45話のオルバさまが
スパルダさんに[illegible]
ーン。45話はバッティさんがサラ[illegible]
[illegible]スタイルになって[illegible]
とにかくすごく[illegible]
たのが印象的で[illegible]
[illegible]はみんな[illegible]
えるのが[illegible]収録されないように[illegible]
えてしまうことが多かったですね
[illegible]
です。大好きで[illegible]
かな。はーちゃんが[illegible]
[illegible]
大事[illegible]
で大好きありがとう[illegible]
めた。は[illegible]ですね
[illegible]
[illegible]はありますよね[illegible]
[illegible]のおばあちゃんが[illegible]
[illegible]
の素直な[illegible]
がっていれば、それは奇跡を起こすのよ」
[illegible]
ていくことは素敵だなと思うので、これ
から[illegible]
[illegible]
[illegible]
うかを学びました。
[illegible]
[illegible]もなく[illegible]
[illegible]
[illegible]
う話をすると[illegible]
のがすごくうれしいです。思い出を振り返
[illegible]
じますし、「まほプリ」のよさを共有でき
[illegible]
たと思います[illegible]ありがとうご[illegible]
[illegible]
考えた[illegible]
思い出[illegible]何年も何十年も[illegible]
[illegible]



モフルン

「モ」と「ノ」を一番話した1年

――まずは1年間、放送が終わっての[illegible]を教えてください。

あと[illegible]、現在でもあ[illegible]ました。とにかくいっぱい言ったし、「モ」と「ノ」を人生で一番言った1年だったと思います（笑）。でも、私はそれを一番覚えたことを誇りに思っています。私今まで[illegible]キャラクター[illegible]語尾が[illegible]たキャラクターがいなかったんです。記念すべき初語尾キャラクターがモフルンだというのもすごくうれしくて、やたらとモフモフ言ってしまいました（笑）。モフという単語は今後慣れることができるかなとも思っていたのですが、「私、モフルンだし」と思っていたからか、すごく自然に発することができたと思います。よくぞ「モフ」という表現を思いついてくれたなと[illegible]かありません。

――終わったという実感はありますか？

あまり実感がないです。50話で楽しく終わったこともあるのかな。またまた続いているような、いつかまた、ミラクルでマジカルなことが起こるんじゃないかなという期待もあります。だから、またモフルン[illegible]ように[illegible]と思っています。

――モフルン役はオーディションを受けられたそうですね。

オーディション[illegible]を受けたあと[illegible]マネージャーさんに「ダメだと思います」って電話をしたくらい、手応えを感じられなかったオーディションでした。自分は[illegible]のですが、[illegible]とに[illegible]リアクションが何もなくて、心を動かせていないんだなと感じたんです。それが「モフルンに決まりました」と連絡をもらって、しばらく本当なのかとソワソワしていたのを覚えています。

――ちなみに、オーディション段階でのモフルンの印象はいかがでしたか？

その段階では、クマのぬいぐるみという情報はあったのですが、イラストはなかったんです。セリフで「ハチミツ甘いモフ」みたいなセリフがあったので、とある[illegible]キャラクター[illegible]が頭をよぎりました。性格についての設定もふわっとした感じだったのですが、クマのぬいぐるみは好きだったので、決まったのふと[illegible]うれし[illegible]たんです。

――では、画面にモフルンのイラストを見た瞬間は？

本当にかわいくて、ギュッとしたいというのが第一印象でした。モフモフ具合はたまらないし、この[illegible]声が聞こえてくるのかぁと感慨深かったです。

――人気シリーズということで、あま[illegible]たあとにプレッシャーはありましたか？

始まる前には、すごくありました。緊張は[illegible]けど[illegible]モフルンは[illegible]だし、と言い聞かせて気負わずにできたかなと思います。1年間走っていくのがとにかくうれしくて楽しみでした。

モフルンを演じるにあたっては、ど[illegible]

プリキュアの現場は、スタジオで映像を観て声を合わせる[illegible]なので、すごく読み込んだり、作り込んだりしたわけではないんです。それよりも、休憩中にみんなと話をするなど、現場の空気感や作っていく瞬間を大事にしていました。[illegible]モフルンは[illegible]ているような、なんでも受け入れられるパワーがあるので、どうしたらモフルンみたいにいられるかなと考えは[illegible]ました。みんなの[illegible]を取りこぼさないようにキャッチすることを意識しました。それ以外だと、キャラクター[illegible]たを気にかけていましたが、「こうしてください」と言われることはほぼなくて、そのままを受け入れていただけた感じです。ただ、たまにモフルンが発する「モフルンジョーク」はなかなかハードルが高かったです（笑）。

モフルンの存在は、私にとってもこうありたいと思うものばかりでしたね。49話で[illegible]リコに「大丈夫モフ」と言える強さを表に出せるところが本当に憧れで、それでいて、みんなの癒しとなって[illegible]たらうれしいです。

――[illegible]はーちゃんとモフルンのコンビはとても微笑ましかったですね。

[illegible]かは[illegible]を育てる[illegible]私にとってもお姉さんでしたし、お母さんで[illegible]す。でも、はーちゃんが大きくなってから[illegible]モフルン[illegible]ことをする[illegible]したことも印象的でした。

――ちなみに、モフルンと[illegible]ところはありますか？

手触り？（笑）。あるいは食いしん坊なところでしょうか。普段から「甘いにおいがするモフ」とかなり言っていたので、私自身、においには相当敏感なんだと思います。きっと、1日に10回くらいは言っていたんじゃないかな。この言葉は作中でも、リンクルストーンを見つけるときにも使う言葉でしたね。

モフルンもしっかりと生きていたと思う

――[illegible]て、モフルンに対す[illegible]

モフルンは、外見的に成長するキャラクターではなかったのですが、個人的には「大きくなったなぁ」という感じがあります。ひと皮もふた皮もむけたんじゃないかなと[illegible]みらいとリコが生まれたときからずっと一緒にいて、みらいと話したいと思っていて、それがリコとの出会いで話せるようになった。でも49話で話せなくなってしまった姿を観て、[illegible]たんだなと[illegible]はありましたね。

そう言ってもらえると、本当にうれし[illegible]

いです。モフルン自身にも、話せなくなったさびしさはあると思うんです。でも、これまで動きで伝えてきたし、動けなくなって話せなくても、みらいの部屋にいるかぎり何かを伝えることはできているんじゃないかな。

みらいでモフルンが話せなくなってからは、モフルンよりもみらいが心配でした。[illegible]と最終回までの数年間をどう過ごしていたんだろう。あれだけ動いて[illegible]モフルンが[illegible]としているのを見て、どんな気持ちだったんだろうって。私自身も、家にモフルンのぬいぐるみがあったので、見つめてみたりもしましたね。

そういえば、りーちゃん（高橋李依）が、モフルンが「みらい」「リコ」「はーちゃん」って呼ぶときに、今まで過ごした時間を込めて呼んでくれるのがうれしい」と言ってくれたんです。モフルンはみらいとの距離がすごく近いけど、リコやはーちゃんとも、みらいとは違った近さがあったと思っていて、その思いを込めて呼んだんですね。たった3文字、2文字、5文字の言葉ですが、49話までに過ごしてきた時間を込めて名前を呼べたらいいなと思っていたなら、りーちゃんからそう言ってもらえたのがすごくうれしくて。きっとモフルンは、みらいに抱っこされたとき、リコの[illegible]とき、はーちゃんと遊んだときの思いを全部あの[illegible]ためていたんじゃないかな。

—[illegible]キュアモフルン[illegible]

最初から、[illegible]と話せなくなるだろうなというのは自分のなかでも感じていました。だからこそ、話せるうちに思いを伝えておきたくて、たくさん話してきたのかもしれません。

—モフルンは、普段ずっとぬいぐるみのキャラクタなので、変身シーンでも印象的[illegible]

本当に貴重だなと思いました。手をつなぐと、[illegible]体が大きくなるということです。モフルンはぬいぐるみだけど、じつは体温ならみらいやリコの体温がわかったなんてこともあったんじゃな[illegible]。モフルン自身も、映画でプリキュアになっていますし、おいしいところばっかりもらっていますよね（笑）。

—プリキュアの姿もかわいかったです[illegible]

映画でプリキュアになると聞いたときはドッキリかと思っていたんです。でも、[illegible]にも立たせてもらえて、本当に貴重という言葉しかない。私としては、自分の持てるものをすべて出して、『まほプリ』のみんなのことをより好きになってほしいと思って、収録にも臨んだんです。

—モフルンのかわいさ[illegible]

モフルンの口や、目のなかの星はぬいぐるみのモフルンのままだったのがうれしかったです。[illegible]と同じ[illegible]感動と緊張で、すごく頑張ったですよな[illegible]

「まほプリ」から大切なことを学んだ

—ほかのキャラクターへの印象は？

みらいは、りーちゃんそのままだと思います。お日様みたいだし、私もみらいみたいなお友達がほしくなりますね。リコは[illegible]あまり変わりません（笑）。[illegible]いたずらを仕掛けて[illegible]て言ってほしいな。[illegible]ちゃんはそともみたいで、モフルンとでは[illegible]お姉さんみたいな気持ちだったんじゃないかな。守ってもらったりもしたけど、[illegible]妹というよりは妹みたいなイメージでしたね。

—TVシリーズの全50話を通して、印[illegible]

みんなと言いたいところですが、20話のモフデレラの回が良かったです。それから11話で、はーちゃんと一緒に初めて学校に行った回。モフルンは、はーちゃんを守ろうとして凛々しい姿を見せてくれたし、ぬいぐるみになるのも上手になっていて、すごく好きな回です。

—アフレコで印象に残ったことは？

モフルンは戦いには[illegible]うしろで戦闘の様子を見ていることも多かったのですが、りーちゃんはアクションのときに体がかなり動くんです。それがうしろから見ていると面白かったかな。（堀江）由衣さんは、手が床と平行になって、ペンギンみたいでかわいいなぁと思って見ていました（笑）。沙織ちゃんは、スッと[illegible]。立ち姿が美しかったのは（井上）喜久子さん。スタイルがいいのはもちろんですが、台本までもが体の一部になったようで、すごく美しかったんです。「うしろ姿イケメン」は、[illegible]さんや内田夕夜さん。[illegible]さんはシャーキンスみたいな[illegible]中田譲治さんは[illegible]ポーズをキャストのみんなが[illegible]

[illegible]面白[illegible]ですな[illegible]お願いモフ[illegible]みなので、14話は[illegible]うのですが、きっと笑ったり怒ったりはされていると思うんです。それでもあれだけきれいなので、みらいがどれだけ大事にしてくれて[illegible]かるなぁと。

—もしかしたら、お風呂に連れられ[illegible]

びしょびしょになってお母さんに怒られて、ドライヤーで乾かされたりしていたかもしれません（笑）。そう考えると、アニメでは描かれなかったけれど、『まほプリ』の世界はまだまだ広がっていますとも思います。[illegible]のときにみらいと出会ってからの年月を数えたいです。きっと、初めて会った記念日とか一緒にお出かけした記念日とかもあるだろうなと。

—それでは、齋藤さんにとって、あらためて『まほプリ』とは？

忘れてはいけない大事なことがいっぱい詰まっていた作品です。言葉にした[illegible]かったりすることも、しっかりと言ってくれた作品でした。7話で人魚の先生が[illegible]気持ちを相手に伝える力です」って言っていたのがすごく印象[illegible]われてしまうこともあるけれど、声をもっと信じられたら、もう少し相手を知ることができるのかなと思うくらい、大事にしたい言葉がいっぱいありました。とても素敵な作品でした。

—メッセージをお願いします。

たくさんのスタッフの方がいて、キャストがいて、いろんな人の力が合わさって50話を走り切ることができました。もちろん、応援してくださった方がいてこその1年だったとも思います。モフルンと一緒に過ごせた1年は、私がこれまで28年間生きてきてベストな年でした。自信になる、誇りになる時間をいただけたと思いますので、支えてくれて、見守ってくれてありがとうございます。あわよくば、ファイルに保存するように『まほプリ』がひとりでも多くの方の心のなかに残ってくれたらと思います。

みなさまマメ色紙

プリキュアたちを支えた魔法界、ナシマホウ界の人々や、敵キャラクターを演じたキャストのみなさまから、作品への愛がたっぷり詰まった素敵なマメ色紙が到着しました。

◆教頭　島芳野

◆魔法の水晶　新井里美

◆校長　内田夕夜

◆アイザック先生　桜井敏治

◆ジュン　金田アキ

◆朝日奈かの子　大地琴恵

◆リアン　小原雅人

◆ケイ　吉岡麻耶

◆朝日奈今日子　加藤有生子

◆リズ　名塚佳織

◆エミリー　楠本ちなみ

◆朝日奈大吉　青木強

キャスト・おつか

甘いにおいがするモフ！

◆ラブー 鶴田吉高

もうアップ・ラパパ！ が耳から離れない！ ラブー♡

◆ヤモー 高戸靖広

ありがとう…そして 悪いロウが… わたモーさん

◆ドクロクシー 秋元羊介

楽しかったデス… ドクロクシー

◆ベニーギョ 井上喜久子

敵役ですが プリキュアちゃんが… モフルンが… 大好き(笑) ベニーギョ♡

◆バッティ 遊佐浩二

謝 バッティ

◆チクルン ニーコ

チクルン ニーコ

◆シャーキンス 速水奨

いやあ、楽しかった！ プリキュア最高♥ シャーキンス

◆スパルダ 小林ゆう

一年間お世話になりまして ありがとうございました!! 『オホエテーロ！』 スパルダ

◆勝木かな 菊地美香

は信じてる!! 魔法つかいは絶対に いるって!!! 勝木かな

◆オルーバ 杉山紀彰

Noriaki Sugiyama オルーバ 楽しかったです! ありがとうございました!

◆ガメッツ 中田譲治

楽しかった～ ワクワクもんだぁ ガメッツ

◆長瀬まゆみ 多田このみ

まゆみになれて本当に 最高すぎ!!かな 一年でした♡♡ ありがとう!! 長瀬まゆみ

【シリーズディレクター】
三塚雅人 × 【プロデューサー】内藤圭祐

プリキュアたちが自分たちのために戦う物語にしたかった（三塚）

「手をつなぐ」というコンセプトを大事に

——本作におけるスタッフは、どのような経緯で[illegible]

内藤　僕は、鷲尾さんプロデューサーに呼ばれて「やって」という感じでしたね。2015年の夏くらいだったと記憶しています。当時、僕は「ワールドトリガー」のアシスタントプロデューサーをやっていたのですが、まだ作品が動いている段階で声をかけられたので、最後まで同作を担当したいという思いもありました。でも、「プリキュア」は大役ですし、大きなチャンスだなと考えて、「頑張ります」と答えたと思います。

三塚　僕に話が来たのは2015年の6月くらいだったかと思います。たしか「Go!プリンセスプリキュア」の21話か22話の演出作業の日でしたね。気がつけば作品を守るための外堀が埋まっていたなぁと感じたのを覚えています（笑）。

今回[illegible]

なかった明確的な要素が盛り込まれていますが[illegible]世界を描[illegible]です。

三塚　じつは、僕のところに話が来た段階では、魔法、ふたりの世界、ふたりでの変身、モフルンを使っての変身、4つのスタイル、そしてはーちゃんが成長することは決まった状態だったんです。僕が入って新しく考えたことは、作中での魔法の扱い方や、作品全体を通してどんなドラマにしていくかということでした。

内藤　初期的な段階で、ぬいぐるみで変身をしたい、という発想がありました。そのうえで、魔法をモチーフに取り入れようということになったんです。そこから先は、とにかくスタッフ間の話し合いで、いろいろなことが決まっていきました。ぬいぐるみと手をつないで変身するなら、人数はふたりがいいだろうとか。そこから派生して、「手をつなぐ」というコンセプトがあるなら、個々の違いを認めることで世界がつながるんだとか。多様性を見せたいという思いもつながっていきました。正直なところ「プリキュア」は魔法少女モノではないという、初期の「プリキュア」シリーズから続いてきたテーマを崩してしまうということには葛藤もありました。

——[illegible]ありきで人数がふたりに決まったということは初代の「ふたりはプリキュア」のオマージュというわけではないのですね。

内藤　そうですね。「魔法つかいプリキュア！」は11作目の「プリキュア」ですが、干支も一周したから初代のイメージをなぞろうという発想はありませんでした。もともと、変身のコンセプトがあって、テーマがあって、人数がふたりと決まったところで、初代のことを多少意識することもありました。

敵に対するイメージは、一度シリーズディレクター（SD）から提案がありました。日々を過ごしているなかで、よくわからないことを言って襲ってくるやつらを、自分たちの日常を守るためにふたりが[illegible]というのをやりたいと。そこは初代にあったかなと思っています。

三塚　近年の「プリキュア」シリーズは普通の女の子たちが困っている妖精のためであったり、人々を苦しめる敵に対して戦わなきゃ、と立ち向かったりするヒーローモノとしての側面に寄り過ぎた面があって、でも僕自身は、「プリキュア」は必ずしもそれだけに縛られたものではない、ときにはもっと自分自身寄りの感情のストレートな表現として変身し、この年の障害とぶつかり合うという形があってもいいのではないかと考えました。最終としては「世界を救う」ことにつながるけど、プリキュアが使命[illegible]

に突き動かされるという話の作り方以外のアプローチを探ってみたいと思っていました。ただ、その試みについてもモフルンという存在から考えた部分があります。やはり子どものころから大切にしてきたぬいぐるみに戦ってほしいと思われるのは嫌だなと思いまして

内藤 『魔法つかいプリキュア！』は、世界がふたつあって、前半と後半とで敵が変わって、さらに妖精枠となるモフルンが[illegible]について何も知らないという、かなりタフなストーリーになりましたね

三間 ふたつの世界をきちんと描くというテーマがありましたからね。そうなると、魔法界がどんな世界かを、みらいが体験しなければいけなくなるから、敵幹部に魔法界を滅ぼさせない。さらに、校長先生のようなすごい魔法つかいが存在している状況で、子どもたちを戦いの矢面に立たせたら、魔法界の大人たちはなんでひどいんだと思われてしまう。初期設定まった状況を作りだしづらかったので、リンクルストーン集めも「いつか来るかもしれない災いに備えるため」という、ふわっとしたものになりました。

——[illegible]

も多少[illegible]話が多かったように感じます

内藤 後半になって話が重くなったの[illegible]結も説明も[illegible]になっていったりすると、子どもたちが怖がってTVから目を背けてしまうのではないかということは、いつも議論されていました。ですから、ギリギリまでやさしい世界、楽しくて明るい世界を見せていきたかったんです。その結果が、49話のAパートの最終決戦のあと、Bパートから50話にかけての物語になったと思っています

——ストーリー展開的には、トクロウシ[illegible]アラモード」の主人公・宇佐美いちかが登場したりと、新しいチャレンジもたくさんあったと思いますが、一番強く描きたかったのは、やはり「手をつなぐ」ということですか？

内藤 そうですね。先ほどもフルンありきで敵が決まった部分もあったとお話ししましたが、それ以上にふたりのプリキュアがいると、ひとりひとりのドラマが薄くなってしまうなと考えたからでもあるんです。ふたりによる濃厚なドラマを描いていきたいという思いもありました。ナシマホウ界と魔法界という、出自も価値観も何もかも違うふたりが出会って、手をつないで心を通わせてすごい力を発揮する。それが世界にも広がって人と人とがつながっていく、というのを描きたかった。1年間のシリーズを通すからこそ、子どもたちの反応を見ながら途中で軌道修正することも可能ではあるのですが、今回は初期に思い描いた通りの着地点まで行けたと思っています。ちなみに、2部構成にしたのは、データ的な話になってしまうのですが、夏休みになると子どもたちの視聴が離れてしまうという傾向があるんです。興味を持ち続けてほしくて、前半のリンクルストーン争奪戦から、世界を揺るがすような出来事を描こうと考えたんです。[illegible]話のいちかの登場に関しては、[illegible]をオールスター的な[illegible]にしようという案もありましたが、あまりにも[illegible]キュアも増えてしまうのではないかと話し合って、50話のみの登場になりました

三間 最終話[illegible]のプリキュアが登場するということ自体は、これもまた[illegible]となる前からの決定事項でした。当然ながら、その時点では次作がどんなコンセプトなのかはまだわかっておらず、詳細が耳に入り始めたころになっても、登場させるにあたって、まず50話自体を49話の最終決戦の続きとするか、前回のドラマとするかは悩みどころでした。正直なところを言うと、50話のシナリオのプロットに取り組むまでは、話の内容およびキュアホイップの描き方はほぼ白紙でした。扱うからにはもちろん、面白くできたらとは思いましたが

——『魔法つかいプリキュア！』の最終回は、49話のAパートで決着がついていて、Bパートから成長したみらいたちを見せるという[illegible]になかった[illegible]でしたよね

内藤 その後の彼女たちがどうなったのかというのは、想像のお楽しみとして終えるという手もあったんでしょうけど、[illegible]ますし、そのほうが子どもたちも素直に受け入れるのかな、とは思います。自分としても、最後に彼女たちの数年後の姿を描[illegible]ことか、いいのか悪いのかはわからないんです。ただ、成長した姿を描いたからこそ、50話でみらいたちが[illegible]。それこそ「魔法つかいプリキュア」らしい明るくて楽しいハッピーエンドになったし、みらいたちは何年経っても再会したら昔と同じ関係性で楽しくやっていける子たちなんだよ、というのを提示できたと思っています

——ちなみに、作り手側としては『魔法つかいプリキュア！』と『キラキラ☆プリキュアアラモード』[illegible]

内藤 50話は[illegible]みたいなノリなので、「オールスターズ」のようなものだと思っていただければ

三間 50話だけ、オールスターズのように、前回の世界観を舞台にしたなかば別作品にする手もあったのですが、あくまで『魔法つかいプリキュア！』の50話として描きたいという思いが強くて、[illegible]の出会いであると考えていますね

——50話で、みらいやリコをあえて中学生の姿に戻したのはなぜなのですか？

内藤 ストーリー上で大きくなっているとはいえ、メインの視聴者は子どもたちですから、大人の姿のまま話を続けるというのが怖いなと思った部分がありましたね。[illegible]うまい具合に中学生に戻してもらえたと思っています

三間 プロットの段階では、トクロウシの力で3人を子どもに戻すという案もあったのですが、強い力で戻っちゃうのも夢がないなと思って、はーちゃんにいたずらしてもらいました。

敵のバックボーンはできるかぎり描かないように

——本作は、1話ごとにフィーチャーされるゲストキャラクターがほとんどいな

か[illegible]とも時間[illegible]と思います

■ 敵へはあまり色音を加えたくないというのは、[illegible]強く意識していたところですね。だから[illegible]ルも食嗅悟の合成で生まれる存在にして[illegible]

■ [illegible]話をすると、毎週20分という尺のなかで、季節のイベントごとや行事ごとを盛り込みたかったこともあり、怪物の発生源となるゲストを出す時間がなかったというのも大きな理由です。それから、今回のテーマである「魔法」は対になる存在がない。たとえば[illegible]であれば[illegible]、[illegible]であれば幸せ[illegible]であれば不幸、[illegible]であれば絶望という対になるものがあって、[illegible]の感情や[illegible]につけ込まれるという[illegible]ンだったんですね。でも「魔法」の対になるものは、強いて挙げれば「科学」ですが、「科学」は悪いものではないので敵にすることはできない、というのもありました。あとは、先にもお話した通り魔法のためにプリキュアが戦う、とは違った状況作りのため、だいたいこれらの理由から、敵が[illegible]ラ[illegible]ルたちと出会って、[illegible]ちゃもんをつけて来て、それをラ[illegible]ルたちが追い返すという構図なんです

■ みらいとリコが手をつないで心を合わせて変身するのに対し、ヨクバールは無理矢理[illegible]のものを合成するという点で対比になってましたよね

[illegible]

■ 敵の事情[illegible]してしまったり感情移入[illegible]たりすると、気持ちもよく[illegible]向ぼせないんじゃないかということは話し合いました。とは[illegible]でも、僕としては敵の事情を描かなかったことで、敵が魅力的に見えなかったとは思っていなくて、1部と2部とで敵が変わったこともあり、[illegible]はあ[illegible]んじゃないかと思ってしまいますよ

——絵はビジュアル的にも[illegible]しくて[illegible]ますか

■ 前半のドクロクシー一味は、白目を作らずに黒目、色で統一しているところで怪人感が出ていたのではないかと思います。人間っぽさがあると、どうしても人間同士の争いのように見えてしまいますから。そこは[illegible]こだわりでもありました。後半の[illegible]などを含め神々の眷属のような存在にしたので、ドクロクシー一味とも人間とも明確に違った[illegible]出せたと思います

——[illegible]敵のクシィであるというのは、どの段階で決まったのでしょうか?

■ [illegible]ドクロク[illegible]僕はどんな存在なのかと[illegible]構成の村山功さんからクシィを提示されました。でも、その段階では、クシィは[illegible]ラルとマジカルが倒しておしまいというキャラクターだったんです。それが後半になってオル[illegible]が登場するにあたり、[illegible]人間が作ったものを[illegible]という設定が生まれて、そこでクシィの存在が大きく[illegible]ですね。後半になってクシィの存在感が増したのは、オルーバのおかげと言ってもいいと思います

——[illegible]

■ 1部と2部とで敵の形態が同じではつまらない[illegible]のがまずあって、前半が悪い魔法つかいなら、後半はそれを上回る存在でなければならないだろうと。魔法以上の不思議な力ってなんだろうと考えたら、神様めいた存在になってしまうんですよね。マザー・ラパーパと悪い神様が、人間を愛するか従わせるか[illegible]考えたのですが、神様[illegible]すぎる[illegible]話が[illegible]くなってしまうので、敵の主張は[illegible]く掘り下げずに、よくわからないものというところに落ち着きました。

バランスを重視したキャラクターデザイン

——キャラクター[illegible]いたいのですが、まずはミラクル/みらいは、どういう雰囲気の子にしたいと考えられましたか?

■ デザイン自体はオーディションで選んでいますが、イメージ的にはふわふわした曲線的な感じですね。たしか、[illegible]マ[illegible]カル[illegible]と呼んでいたよ[illegible]子は[illegible]のほうが自覚的なデザイン[illegible]伝えました。オ[illegible]の際、キャラクターデザインの宮本絵美子さんが描いてくれたイラストは、[illegible]

■ [illegible]みらい[illegible]キャラクタ[illegible]にするか[illegible]って言いつくキャラクターにするか、どちらかをまず考えました。リアルに考えれば[illegible]だろうなど、不思議なこともすんなり受け入れて[illegible]魔法つかい[illegible]て、魔法つかいの悩みごとを知って、助け合[illegible]する子にしました。そういう子ですから[illegible]違和感はないかなと。そういった行動原理はすんなり決まったのですが、[illegible]が悩んだのは、目標とか夢をどうするかということでした。物語の主人公としては、やはりなんらかの夢があったほうがいいのではないかなと。でも、これから魔法という非日常的なものに出会う子ですから、あらかじめ何か目標のようなものを持って[illegible]と、夢や目標を達成するために魔法を使うか使わないか、ということに重きを置いてしまう可能性があるなと思って。「魔法に頼るのはずるいか否か」という点に強くスポットが当たるのは避けたかったのです。結果として序盤は「目標がまだわからないんだけど、今は楽しいんだよ」という女の子になりました。後半になると、みんな[illegible]なりたいことがうれしいということに気づき始めて、そういう人間になりたいとも思い始める。ただ、具体的にそれができる職業は明確には一個に「これ!」と取れるものはありませんし、エピローグでは[illegible]と学生にして、具体的にどんな職業に就きたいか[illegible]のはぼかしました

——[illegible]がでしょうか?

■ デザイン的[illegible]的ということとり[illegible]というイメ[illegible]はありました。理想の[illegible]のも持っているし、それに向かって頑張ってもいるんだけど、なかなかうまくいかない。そう考えてからは、1年かけて自然と理想に近づいていくようなキャラクターになりましたね。

■ マジカル/リコのほうが、悩みごとがあってコンプレックスがあって[illegible]感情移入[illegible]やすい女の子だとは思っていました。ただ、あくまでもミラクル/みらいが中心であって、[illegible]かなければならないということは再[illegible]打ち合わせで話をしました。何かを決断したり、強い思いを持ったりするのは常にミラクル/みらいなんだと。

——フェリーチェ/ことはは、作中で成長するキャラクターでした。

■ フェリーチェ/ことはは難しかったですね。とりあえず、変身前と変身後のギャップを作りたかった。

■ キャストのオーディションの段階でも、性格がふわっとしていたんですよね。ことはが大人びていたりする可能性もあったし、あれこれ考えながら作って[illegible]フェ[illegible]関してだけは、玩具用の収録がありましたから、それまでには[illegible]まりました[illegible]ラクル[illegible]関しても、変身前の悩みを変身後に解決してしまえる[illegible]そうなるとあまりにも変身前と変身後が別[illegible]になってしまうのではないかと判断したので、ミラクル/みらいとマジカル/リコは外見は変わっても性格は変わらない形にしました。ただ、フェリーチェは特殊な事情を背負っていますし、いっそガラッと変えてしまうのはどうだろう

という話になり、変身前は朗らかで無邪気な感じに、変身後はキリッとした感じになりました。

■ 変身前はみらい、リコ、もフルンに育てられたこともあって、甘えん坊な子になっていますよね

――モフルン[illegible]4人目[illegible]キャラクター[illegible]

■ ほかのシリーズでいうと妖精の立ち位置だけど、実際は妖精とは呼べないという、すごく複雑な子になりましたね。あくまでもぬいぐるみ、ですから。モフルンは、計算されたかわいさやあざとさはないように、かわいいを[illegible]ような[illegible]くらいのキャラクターにしたいと考えていました。でも、大人たちが集まって会議をすると、辛辣なことを言う"[illegible]モフルン"を考えたがるんですよね（笑）。それは徹底的に[illegible]ました。

■ モフルンはみらいの成長を願って与えられた子ですから、言うなれば願いが人格を持ったような存在だとも思うんです。だから、みらいの幸せを願うし、[illegible]合わせるために頑張るし、みらいとリコがケンカをすれば仲直りをさせようとする。動けるようになって、みらいと一緒に成長した部分もあるとは思うのですが、大元にはみらいが健やかに幸せになりますように、という思いがあるんですよね。だから、あざとさはなく、純粋に物事を考える子になりました。たしか名前を、モフルン、にするか、[illegible]にするかで悩んだんですよね。でも、[illegible]はよくないだろうということで「モフルン」になりました

――ミラクルやマジカル、フェリーチェの名前は、どのように決まりましたか？

■ 名前に関しては、みんなで案を出して決めました。なので、明確に誰が決めたかと言われるとわからないんです。ミラクルとマジカルに関しては、名前[illegible]ストのなかにあって、ABC[illegible][illegible]の[illegible]ブルなほうがいいんじゃないかということで、すんなり決まりました。フェリーチェは、これも[illegible]スタッフが[illegible]と"きれいな言葉"を探して、たとえば「幸せ」をほかの国の言葉にしたらどうなるか、というのを探していくうちに決まりましたね。変身前の名前に関しては、たしか名前が先にあって、それから名字を決めたんだと思います。「みらい」というのは、魔法に対するイメージで決めて、

■ [illegible]を拾っているということもあって、最初は「きせきの」という名字だったような気がします。でも、しっくりこなくて朝日奈になりました。

■ リコは、有名な帽子関係の映画や役者の名前などをヒントにして、当初は「リズ」だったんです。でも、なんだかこれもしっくりこなくて、結果「リコ」になりました。「リズ」はお姉ちゃんに引き継がれましたね。

――[illegible]呼ばれて[illegible]どのように決まったのですか？

■ これも[illegible]気がします。まず「はーちゃん」という名前は先にあったんですよね。そのあとに、「フェリーチェ」が決まっていて、じゃあどうしようかと。ことはに関しては、名字を決めてから名前を決めました。フェリーチェのイメージから「花」に関する名字が[illegible]ということで、はなみ[illegible]だけ先にあって、漢字をどうしようかとなって、「花」はいいとして「み」をどうするかと考えて、海の花が広がっていると[illegible]思いで「海」はどうだろうということになりました。この段階ではまだしか「花の海」の話は出てきていませんでしたね。名前は「はーちゃん」ですから「は」は絶対必要だろうと。それで試行錯誤して決まったんだと思います。

――魔法界やナシマホウ界の、ほかのキャラクターについてはいかがですか？

■ だいたいのキャラクターは、村山さんが構成の段階で考えてくれていたんです。魔法界での補習組にはこんなキャラクターがいるとか、ナシマホウ界のクラスメイトはこんな感じとか。名前も村山さんの案をいじらずにそのまま使いました。魔法界のジュン、ケイ、エミリーの3人は、わかりやすさを重視しましたね。姉御肌とか怖がりとか、すぐ忘れ物をするとか。そして彼女たちもみらいやリコと接することで少しずつ変わっていくキャラクターであってほしいなと思いながら作りました。ナシマホウ界のクラスメイトたちは、みらいには[illegible]も友達がいますよという象徴的な部分が大きいです。それがまゆみであり、男の子もいるよということでの壮太。かなは魔法モノにありがちではありますが、主人公の秘密を目撃しかけるお約束のキャラクターです。ゆうとはクラスメイトのひとりという枠だったのが、いろいろあって仲間に入った感じですね。

子どもたちに楽しんでもらえる「笑い」を
[illegible]

内藤　ちなみに、イケメン枠の■■くんという男の子が登場する予定もあったんですよ。尺の都合で出なくなっちゃったんですが

三塚　本当であれば1話が初登場で、その後のキャンプに同行してたはずだったのですが、出番がなくなってしまったので、結果、なくなってしまいました。でも、原案もあるし、こっそり戻せばどこかに映っているかもしれません

――イケメンが出ると、主人公との恋の話が期待されるから、出さなかったのかなと思いました

内藤　そういう恋の話は、まゆみがやってくれたので

三塚　ラブストーリーもあるし、モテる男の子もいるけど、みらいとリコの恋の話は最初から作る予定はありませんでしたね。あくまでも、ふたりの絆の物語ということは強く意識していました。

4つのスタイルを作ったことへのこだわり

――本作は、基本の変身スタイルが4種類あるというのも新しかったですね。アレキサンドライトスタイルがあるものの2段階変身はしないという。

内藤　2段階変身にしなかったのは、初期の企画の段階で、今日はどのスタイルで戦うのかを期待しながら観てほしいという思いがあった結果ですね

三塚　そもそも4つのスタイルでスタートしたのは、ふたりだけだと画面がビジュアル的にさびしかったからです（笑）

内藤　4つのスタイルは玩具との関係で最初に出てしまいますから、であればポスターやオープニングでもどんどん出していきたいというところですね。

――変身シーンに関しては、モフルンが必ずいなくてはいけないので、お話作りに制約があったのではと思います

三塚・内藤　苦しいどころではなく、制約はありました（笑）

三塚　モフルンの存在は、変身シーンのみならず、いろいろな面で大変でしたね。みらいとリコが最後まで[illegible]話の展開も大変ではあったのですが、それ以降は一緒にいてくれさえすれば問題はありませんでした。でも、モフルンは普通ならみらいたちにベッタリくっついていられますが、ナシマホウ界だと動けることをバレないようにしなければいけないので、苦労がありました。

――ちなみに、手をつないで変身の掛け合いをしたあと、どのタイミングで手を離してもオッケーなんですか？

三塚　変身が始まってしまえば手を離しても問題はないんです。ただ、1話で手をつないで変身をする過程をすごく丁寧に描いたので、変身バンクもキッチリまで手をつないでほしいなと思って、放送のような形になりました。変身終わりのギリギリまで手をつないでいなければならない映像の作りにしたので、作画などは難しかったと思います

内藤　プリキュアの人数が増えたので変身バンクも長くなるかと思いきや、逆に大変になってしまいましたね

三塚　変身バンクは、ミラクルとマジカルの衣装の[illegible]なるべく均等に見せていくことにも注意しました

――4つのスタイルごとに決め技も異なりますが、見せ方へのこだわりは？

三塚　決めの魔法は玩具の意向もありますが、今回は赤＝火とか、青＝水というのは控えめにして、むしろ石のイメージを重要視しました。ダイヤであれば光や輝きですね。僕がやってみたかったのは、カウンター技なんです。撃ってくる技を受け止めて反射するということをメインに、ダイヤモンド エターナルは考えました。敵がいないと成り立たない決めの魔法というのもすごいですけど（笑）、ほかの魔法は、全部ダイヤと同じではつまらないので、ルビーは摩擦のパワーを利用して敵をリボンで包み込むようなもの、サファイアはストームの自爆的で言うと最後から2番目で、どうしても目立ちにくいんです。ですから、あえてストレートにビーム系発射する魔法にしました。トパーズは、ほかの3つの魔法を踏まえつつ、もう少しアピールしたいという要望もあって、粒を使った電気の反発、レールガン的に敵を吹き飛ばす形にしました

――アレキサンドライトスタイルについても教えてください

三塚　3番目のリンクルストーンがあって、プリキュアの3人が最後の変身をするというのが決まっていたので、そこから考えました

内藤　アレキサンドライトは希少価値のある不思議な石ということで、最初から最後の石に決まっていましたね

三塚　デザインは、ダイヤスタイルの延長線上で、魔法の帽子が大きくなっているイメージですね。フェリーチェは、魔法にある神様の彼的な要素を活かして、女神に近い存在にしたいとキャラクターデザインの宮本さんに伝えて作ってもらいました。アレキサンドライトスタイルが変身ですぐ魔法を使うタイプなのは最初から決まっていたと思います

――「キュアップ・ラパパ」という言葉は、どのように決まったのですか？

内藤　あれは村山さんのシナリオに入っていたと思います。子どもは呪文が好きかなと

三塚　最初はもう少し言葉っぽくて、…もあるからいいのかなと思いました。曲が出た時点で、いけるかいけないかを確認して、すんなり決まりましたね

内藤　「キュアップ・ラパパ」に関しては、使う魔法によって変えるのかも議論はしました。でも、結果として魔法の言葉は統一したほうがいいだろうということになりました。それが浸透したので判断は間違っていないと思います

――プリキュアといえば、お決まりの口上も……

内藤　1話のシナリオの段階ではまだ決まっていなくて、村山さんが「○○○の奇跡」「○○○の魔法」みたいにブランクにしてきていたんです。そこで何にしようかと会議になって、僕が、ふたりはどうですかと提案しました。採用されたのがうれしかったので、すごくよく覚えています（笑）。フェリーチェはどうやって決めたんでしたっけ

三塚　会議でホワイトボードにいろんな単語を書き並べて、組み合わせて決まったんだと思いますよ

◆「[illegible]ウル」「カル」「ジュエリー」が3つの要素で構成されているから「フェ」「ネ」も「フェ」「チェ」なんとか、かんとか、というふうになるだろうなとは最初に思っていました。花のモチーフだから「フラワ」が入って、それから「ファンファン」が決まった感じだったかな。「ファンファン」はこれから戦いに臨むにあたり、楽しんでちゃダメだろうという意見もありましたが、FUN（ではなく）ファンタスティックフ[illegible]の略なんですと、強引に押し通したような気がします（笑）。

バランスで選んだ キャスト陣

――プリキュアのキャストに関しては[illegible]ですね。

◆『魔法つかいプリキュア！』は3人のプリキュアとモフルンがオーディションの対象でした。

――モフルンもオーディションだったんですか？

◆そうですね。実は、今年はプリキュアが例年より少ない3人でしたし、[illegible]枠があったからモフルンもオーディションにも、だったのかもしれません。

三輪 モフルンも大事なキャラでしたから。

――ミラクルが高橋李依さんに決まったポイントは？

◆元気な声というのが、まずありました。オーディション時のセリフは、[illegible]監督と音響監督のものがあったのですが、高橋さんは変身前と変身後の区別がしっかりされていたし、元気もあって若さというのも今回は大きかったかもしれません。1年を通して、一緒に成長していく姿が見えたので。

三輪 ミラクル、みらいとマジカル、リコを決める際は、キャリアのある方と若手を組み合わせるか若手同士にするか、もしくはキャリアのある方同士にするかを考えたんです。今回は、人を育てる面としても考えた結果、高橋さんを選びました。

――[illegible]堀江由衣さん[illegible]

◆ミラクル、みらいが決まって、それから周りをどうしていこうかという決め方でしたね。ミラクル、みらいとの声のバランスは考えますが、もちろん役者として声がキャラクターのイメージに合っているかということが最重要ポイントでした。

三輪 絞られた候補のなかで、しっくりくるのは誰かなと考えていくうちに、自然と決まった形ですね。

――ことは／フェリーチェに関してはいかがですか？

◆早見[illegible]さんは別の役で受けていたところ、[illegible]その役で演じてもらいました。すごくハマったなと思ったので。

三輪 プリキュアのオーディションでは、わりとある形のオーディションらしいのですが、しっくりきてよかったんです。

◆モフルンは、性別がモフルンなので、男の子すぎず、女の子すぎず、中性的な感じで。

――モフルン[illegible]

三輪 元気でかわいいんだけど、活発すぎない。どちらかというと赤ちゃんぽさも持ちつつ、冷静でもあると。そうすごく絶妙なバランスを求めた結果が、齋藤彩夏さんになりました。

スピンオフや 続編を作りたい

――改めて50話を振り返ってみての感想を教えてください。

三輪 よくゴールまでたどり着けたなという思いです。無事に最終話までオンエアされて、満足です。

◆準備期間を加えると2年弱、『魔法つかいプリキュア！』に携わってきたのですが、あっという間に過ぎた印象です。走っている間は冷静に振り返るようなことはなかったんですけど、最近は、変だったことや変わったことを思い出すことも多くなりました。『プリキュア』って毎年話は変わっても、昨年も似たようなおもちゃを[illegible]たのに、と感じる親御さんもいると思うんです。でも、毎年、東京・池袋で行われているイベントが大盛況で、『魔法つかいプリキュア！』のイベントに行きたいと言ってくれる子が多かったんだろうなというのが実感できて、すごくうれしかったですね。

――エンディングの映像[illegible]

◆エンディングを制作したデジタル部からの提案で実現したのですが、すごくよかったですね。モフルンがメインで、プリキュアは足しか映っていないような贅沢な回もあって、子どもたちが飽きないように、楽しんでもらえるようにというところがスタートでした。ゲーム的にも楽しいエンディングになったのではないかと思います。

――最後に、1年間[illegible]お願いします。

三輪 1年間、ご視聴ありがとうございました。おかげさまで無事、完走することができました。ナレーションは終わりましたが、またいずれ何かの形で、『魔法つかいプリキュア！』に関係する何かができればいいなと祈っております。

◆1年間、応援していただきありがとうございました。1年で終わりましたが、魔法つかいプリキュアではありますが、なんらかの形で、続編とか、スピンオフとかできたらいいなと思っています。この『魔法つかいプリキュア！』のTVシリーズ全50話と、『魔法つかいプリキュア！』に関わってきた皆、秋の映画もひっくるめて、みなさまの心に残る作品になれるといいなと願っております。いつかまたどこかでお会いしましょう。

【シリーズ構成】

村山功

「みらい」や「リコ」を見ている子どもたちが親しみを持ってくれる子にしたかった

作品世界の魔法は万能なものではない

――村山さんは、これまでも『プリキュア』[illegible]

「[illegible]鷲尾天プロデューサー、内藤圭祐プロデューサーから『シリーズ構成をやりませんか?』と言われたので、『はい』と返事をした感じです。

[illegible]

「魔法もの」でいくということは決まっていました。それから、最初はふたりでいきますということも。ふたつある世界を[illegible]という話も決まっていて、そこから物語をどう組み上げるかを、ほかのスタッフと一緒に考えるなかで[illegible]

[illegible]

魔法を使っちゃうと、プリキュアに変身しなくてもいいじゃん、魔法で戦えちゃうじゃん、という印象でした。でも、プリキュアが使える魔法は、魔法のなかでもとくに優秀な[illegible]ものという設定で作って、普通の魔法つかいでは倒せないような敵が襲ってくるということにすれば、いけるかなとは思いました。『魔法つかいプリキュア!』における魔法は、万能なものではないと[illegible]

[illegible]

今までのプリキュアで描けたところもあるけど、わりとしっかりした子たちが多かったと思うんです。でも、打ち合わせのときに、ある女性スタッフから元気な女の子は女子からすると感情移入がしにくい、という話が出て、憧れはするけど、友達になりたいとは思えないのでは、と。僕は、それがすごく[illegible]だと思ったんです。やはり、視聴者[illegible]を考えると子どもたちが、自分たちと同じだと思って親しみを持ってくれないと意味がないですから。そこで、リコは自分の苗字がかかってるからアイデンティティ[illegible]というキャラクターかなと思っていました。[illegible]ダメなところがあるのは今までの東の子にはなかったかもしれません。みらいに関しても、そこまでできる子という設定はないのですが、みんなの気持ちをつないで、唯一の存在なので[illegible]物語が後半にいくにつれ、オールマイティな[illegible]になったかなと思います。

[illegible]ですかね。

みらいのような子、走るタイプは勉強が苦手という子もいますが、彼女自身は学ぶことは好きなんですよね。

[illegible]

[illegible]ふたりはプリキュアのときはホワイトがおしとやかで優等生で、ブラックはちゃんと明るい子というのがすごくしっくりきていた時代だと思うんです。ただ、今は時代的に複合作品もあるし、ヒーローは正義の味方というルールという2タイプだけとは限らない[illegible]それなどもあって、今回はピンクかといえば[illegible]ルとかではこだわらないようにはしました。元気なみらいだって苦手なこともあるし、クールぶってるリコもはらはらやけるときがあるし、リアルな人物として描けたのではないかと思います。

[illegible]

これは、視聴者の子どもたちにとっても記号的にわかりやすいものがあったほうがいいかなと思って加えたんです。最初に僕が書いたものが、とくに編集されることもなくそのまま残ったという感じでしたね。ただ、[illegible]からは物語の展開が進んでいくにつれて、たぶんそこまで出てこなくなると思ったのですが、あんまり「[illegible]しないでね」と言われましたが、僕も、後半がシリアスになっていくので、口ぐせ的なものは消えていくのが普通だと思っていたのですが、意外と最後まで使っていたような気がします。

[illegible]

ワクワクもんだし、というセリフもありましたしね。実は、しっかり神様的存在のマザー・ラパーパの思いを受け継いでいるって過酷な運命だと思うんですけど、僕としてはマザー・ラパーパの思いを受け継いでいることに関しては、作中で細かく描くことではなく、最初から消えていきました。本作は最後まで明るく終わりたかったので、はーちゃんはあまり悩ませたくないなと思っていました。はーちゃんとしては、小さなところからお世話をしてくれたみらいとリコ、そしてモフルンこそが母親的な存在です。[illegible]みらいたちが[illegible]は、ちゃんと自分としてはそこまで悩まない、自然と明るい女の子になってくれましたね。

[illegible]

モフルンは、当初4歳くらいの女の子という設定でキャラクター像を作っていました。ただ、あまり子どもすぎると中学生であるみらいやリコたちの気持ちもわからないと思って、結果、実際に動かしてみたら、6歳から7歳くらいの印象になったなと感じています。

モフルンは、プリキュアの変身に大きく関わるキャラクターでしたから、みらいとリコと手をつなぐ、しかもセンターで、言ってみれば3人で変身しているわけで、これまでのシリーズの妖精的なキャラクターのなかでも、かなり重要なポジションにいます。だからこそもちろん「大好きだな」って思ってもらわないと困る。そうかと言ってあざとくしすぎると嫌われてしまうし、そのバランスにかなり気を使いました。結果的には、4人目のプリキュア的存在として認めてもらえたようなので、正直なところホッとしています。

――ちなみに、映画『魔法つかいプリキュア！奇跡の変身！キュアモフルン！』で変身したときの感想は。

自然な流れだったかなと思います。事前に神木優プロデューサーから「モフルンをプリキュアにしたい」という話は聞いていましたから。お願いしたのは、ことはがフェリーチェになるのかみたいなことだったので、ことはがフェリーチェに変身するまでは、モフルンがプリキュアになることを宣伝しないでくださいということだけです。最初に新たなプリキュアになる瞬間は、フェリーチェが初めてにしておきたかったんです。

――ちなみに、TVシリーズにもキュアモフルンを出そうという意見はあったのでしょうか？

それはありませんでした。出すこと自体は問題ないとは思うのですが、映画を観ていない子にしてみたら、なんでモフルンがプリキュアになっているかがわからないので、あくまでTVを観ている子を主体に考えていました。

みらいとリコ ふたりの絆の物語

――脚本陣は、村山さんも含めた全5名の脚本家の担当話はどのように決まったのですか？

紹介や、僕からお願いしたなど、いろいろです。とにかく魔法界とナシマホウ界というふたつの世界が出てくるので、その辺りを描いてくださる方、それから「魔法」という楽しい話なので、どの話数でも全力で楽しんでくれそうな方にお願いしました。

――全50話という長い期間となると、物語は難しいですが、書き手によっては中だるみする可能性もあると思います。そのあたりは、どうバランスを取りながら構成を考えていったのでしょうか。

じつは、企画段階で『魔法つかいプリキュア！』は2部構成にしようと考えられていました。1部は1年と決めて敵が変わって、2部として1月からは『プリキュアオールスターズ』的なことをやろうとしたけど、「オールスターズ」はさすがに実作的に無理だろうということで、2部構成になりました。

――50話に『キラキラ☆プリキュアアラモード』の宇佐美いちかが登場したのは、3部構成の名残なのですか？

そうなりますね。といっても、みらいたちが成長したところに出てくるし、僕たちは『魔法つかいプリキュア！』と『キラキラ☆プリキュアアラモード』の世界はつながっていないと考えています。今回に関しては、「魔法」という要素が存在するからこそアリかなと。「プリキュアオールスターズ」と同じでパラレルワールドだと考えています。

――魔法の話へ戻りますが、はーちゃんの成長というのは、物語のひとつの山場として展開されていたように思いました。

ことはは2部になってからフェリーチェとして登場することが決まっていたので、どうやって物語に組み込んでいくかを考えました。フェリーチェは緑色を基調としたプリキュアです。女の子が大好きなピンクや紫と比較して、色としてはキャッチーではありません。なので、なおさら彼女の話は気合いを入れていこうとしていました。

――強烈な個性を持つみらいとリコのふたりの間に、ことはがどのように入ってくるのかと注目していました。

は、ちゃん自体は当初からいたキャラ

ウタ」なので、ふたりの邪魔をするという感じではなかったし「敵」と言えればなんら問題はなかったです。ふたりの愛の邪魔…は言いすぎかもしれませんが（笑）。ことはがいることでラパスが崩れるという危惧はありませんでした。逆に、2期で急に新しい登場人物として参加すると、その子の人となりを説明するのに話を割かないといけませんから。

——そして今回のプリキュアは、たとえば「男子がピンチだから助けに行く」といったような誰かのため、というわけではないところも印象的でした。

王国が悪者につぶされて、妖精がプリキュアに助けを求めに行く」というストーリーは、緩くなるからやめたいと僕のほうから申し出ました。これは、僕の勝手な解釈かもしれませんが、プリキュアが妖精から「助けて」と言われて助けに行って、力でもって侵略者を倒せば問題が全部解決するのかといえば、そうではないと思っているんですね。現実世界にも難民や移民の問題があります。作り手として、その問題は作品に盛り込んでしまうことがあると思っていて、そんな大人の事情を子どもたちに見せたくなかったというのもあります。何よりも、子どもたちにプリキュアを友達として見てほしかった。そうすると、強大な敵に立ち向かうとか、荒んだ王国を救うみたいな壮大な話は違うかなと思ったんです。

——今作では前半のストーリーは、ほとんど描いていませんでしたね。

あえてならべ…敵については掘り下げませんでした。敵のほうが複雑な事情があることもあって、敵のしがらみを描いたほうが面白いのはわかるんです。でも、プリキュアたちの話をメインにするにあたって、敵をフィーチャーしてはダメだろうと考えて、極力排除しました。敵はあくまでもぶっ飛ばされるだけ。それは自分から決めていました。

——今回、敵の外見が明らかに人々と異っていたのも、つまりはぶっ飛ばしやすいからだったのでしょうか？

その通りです。魔法つかいに対比して悪魔的、使い魔的なものが合うかなと思ったのがひとつですが、それ以上に人間的でない敵のほうが、思いっきりぶっ飛ばせるかなと。あまりにも人間的な容姿にしてしまうと、敵もかわいそうという思いが出てきてしまいますからね。

——みらいとリコ、はーちゃん、そしてモフルンの4人の関係を邪魔してくるから、敵はイヤなやつだということですね

そうです。「終わりなき混沌」に対しても、みらいの思いは「太陽の日照りをなくして平和みかんを作れなくした許せないやつ」なんです。「混沌」が許せないわけではなくて、ただ単に日照をワガママで邪魔されてしまったのが許せなかっただけなんですね

——過去のシリーズでは前話で敵にされてしまうゲストキャラクターもいましたが、今回はほとんど登場しませんでした

ゲストよりも、みらいとリコのふたりを明確にメインに据えたかったからです。それから、感情とか目に見えないものを奪われると、今の話は子どもにはわかりづらいと考えたんです。だから「希望」とか「絶望」とかの概念ではなく、「手をつなごう」「人は個性があるんだから違うから素敵なんだ」ということを前面に押し出したんです。以前、鷲尾天プロデューサーに、「小さな子どもたちは希望とか言ってもわかっていないと思う」と話したことがあったんです。でも、そのときは「いつか大きくなってプリキュアが言っていた『希望』ということがわかる日が来るから」とおっしゃっていました。鷲尾プロデューサーは子どもたちをより出す作品を信じる姿勢に、本当に感銘を受けました。これまで多くの『プリキュア』は、いつか大きくなったらわかってくれると、その考え方を継承してきたと思います。ですが、今回はストレートに、観ている子どもたちにとって等身大のテーマを掲げました。もしかしたら、対象年齢より上の方は、物足りないと思われたかもしれません。

——過去[illegible]キャラクター[illegible]ましたが、今作ではなかったのも、あくまで[illegible]

そうです。とくに今回はふたりのお話ですし、「友情」と「プリキュア」を両立させるのは難しいと思いました。ふたりで友情を育んで戦っていくのに、そこに恋愛が入ってしまうと、友情の部分がおろそかになりかねない。「魔法つかいプリキュア！」はみらいとリコがメインの話ですから、[illegible]恋の話を入れる

「魔法つかいプリキュア！」は とにかく明るく楽しい作品になりました

のは無理だろうなど

かわいさや華麗さを重視した変身シーン

──手をつないで変身するシーンも、久しぶりですね。

その世界観の…セットがふたつの世界をつなぐ、というイメージだったので、手をつなぐのは必然だと思っていました。『ふたりはプリキュア』を意識したというお話も出ませんでしたね。むしろ、モフルンと手をつないで3人で変身するときにどうするかということを、かなり話し合った記憶があります。モフルンの位置がどうしても…になってしまうので、最初は難題でしたが、…SDが完璧な変身シーンにしてくださったと思います。それから、制作当初は、前作の『Go!プリンセスプリキュア』のメインキャラが4人だったので、見た目でパワーダウンしないようにすることをすごく気にしていました。といっても、人数を増やすことはできませんから、変身シーンを派手にするとか、4パターンの変身で魅せるという手法で、演出をはじめとしたスタッフのみなさんのおかげで、華やかさと華麗さを出せたのではないかと思います。

──4つの変身は、すべて同列という認識なんですね。

そうです。そこは新しいポイントかなと思います。普通だったら、ダイヤスタイルをベースにして、そこからパワーアップするためにスタイルを変えると思うのですが、『魔法つかいプリキュア！』では違うスタイルにしようとしたら、変身を描かなくてはいけない。1話ごと回の変身パターン、予算上のも難しかったですね。

──4つのスタイルで、…設定が…など思います。

最初、…みたいな属性パターンは、それに縛られすぎてしまうのでやめようという話になったんです。…属性の敵には水属性で戦う、みたいなことをやっても面白いのですが、女の子はそうじゃないだろうと。それよりも、女の子が喜ぶかわいらしさや可愛さを…したほうがいいんじゃないかと話し合って決めていきました。

長いようで短かった1年間

──お話を…すが…。

『映画プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法！』の脚本も手がけたのですが、同作は、敵がプリキュアの涙を盗もうとするから、プリキュアは泣いてはいけない、という話でした。観てくれた子が、プリキュアが泣かないから、私も泣いちゃいけない、ということがあって、でも泣かずに頑張った、という話を聞きまして。子どもはそれくらい、すごく真剣に物事を吸収するので、何を描くか、ということは本当に大事なんだなと感じました。

──全50話が終わったところで、改めて振り返ってみた感想は？

長いようで短かったです。描きたいこともまだまだ、ありますし。…を言えば、1期、2期、4期とやりたかったです（笑）。

──たとえば、どんな…を描きたかったんでしょうか？

自分の発言と矛盾しますが、敵を描きたかったという気持ちもちょっとあります。…自分としては敵を…プリキュアを…つけて、それから彼女たちが立ち上がるという姿を見てみたかったですね。とくにクライマックスの戦いに関しては、プリキュアは1月で終わるのですが、年末年始には番組のお休みが必ず1回はあります。たとえば年末から年始にかけて最後の戦いを書き始めても、1週お休みを挟むと、子どもはお話を覚えていてくれない可能性が高いんですし。あと、年内最後の放送のクリスマスは楽しいお話にしたいというのもありました。どうしても年が明けてからクライマックスの展開にしたかったので、ちょっと駆け足になってしまったかなとは思っています。最後で魔法界とナシマホウ界がひとつになり、人世界をもう少し描いてみたかったです。

──最終決戦前…これまでとは…しました。

それは三塚SDの思いが大きかったのだと思います。大人たちは戦いを描きたがるけど、子どもたちは…まさに嫌になるという三塚SDの考えもあって、なるほど、だったら、そのことを、今回は49話のAパートで戦いはスパッと終わらせてしまおうと。

──…最後…。

変身後にみらいたちが…んだから、最後にはみらいたちが…を見せたいね、と当初から話していたので、それが…できたことはうれしかったです。これもテーマに関わる話になりますが、最近の少年漫画や…作品における成長を謳歌する風潮…があまり好きではなくて、…上がらなければならないという考え方が根底にあって、ちょっと気持ちや心の…をそそる気がして、十分頑張っていることだし、それでいいだろうと思っているんですね。何より成長することの素晴らしさなんて、成長真っ盛りの子どもたちには言わずもがなでしょう。今作ではプリキュアが成長したから魔法が使えるようになりました、ということはしなかったんです。

魔法界の変身がみらいやリコとタッグを組んで、なんだかちょっと変わりましたね、と最後と視聴者もそう言われてみれば変わったかも、と気づくような段階を踏んで、区切って成長していくのではなく、グラデーションで成長していくといいかな。まあ、最後の最後には、とんでもない成長をみらいたちは見せますが（笑）。

──…メッセージをお願いします。

…を読んでくださっている多くの方々は、おそらく…ではないでしょうか。「プリキュア」のことをちゃんと思います。…をそっとおひとりです。ずっと関わったプリキュアで本当に思い入れの強いシリーズです。今回もシリーズ構成という立場で関わらせていただいて幸せな1年間でした。みなさんに作品を応援していただいて、とても幸せでした。1年間お付き合いいただきありがとうございました。

【キャラクターデザイン】

宮本絵美子

ミラクルとマジカルは つねに対比させながらデザインしました

ミラクルはふんわり マジカルはスマートに

―『プリキュア』シリーズのキャラクターデザイン[illegible]と聞いていますが、オーディションの段階[illegible]性格[illegible]

その段階では、詳しいところまでは決まっていなかったように記憶しています。プリキュアに変身したあとの姿がメインで、変身前の姿も「ふわっとでいいから描いてね」とお願いされた気がします。

―その後[illegible]キャラクター[illegible]デザイン[illegible]まってから、それぞれの性格などは決まっていったのでしょうか？

キャラクターの性格は、スタッフが[illegible]ま[illegible]ての打ち合わせで決まっていったと思います。そのイメージを聞いて、私もデザインを詰めていきました。

―今回[illegible]作品のテーマが「魔法」ということで、テーマを意識してデザインされた[illegible]はありますか？

ちょっと不思議な雰囲気を出したくて、たとえば胸についているブレスレットや飾りが浮いて見えるようなデザインにしました。どのスタイルでも[illegible]を[illegible]っているのは、内藤圭祐プロデューサーの意向で[illegible]。オーディションのときから、そこまで[illegible]というテーマに縛られないように、と言われていたので、魔法つかい的な要素を前面に押し出すことはしませんでした。

―[illegible]各キャラクターのデザインのポイント[illegible]を教えて[illegible]

[illegible]

ミラクルのポイントは、広がるふんわり感です。ミラクルとマジカルは同時にデザインをしていたので、ふたりの対比をつねに気にかけていました。ミラクルはふわっと[illegible]をテーマにしていたので、[illegible]もかなり[illegible]があるかもしれません。

[illegible]

マジカルは、シュッとしたスマートな感じのイメージです。ふたりのバランスを考えながら描いていったのですが、それでも共通のポイントは[illegible]しておきたく[illegible]。たとえば[illegible]ルと[illegible]スタイルだったら[illegible]ティールだったり、トパーズスタイルだったら三つ編みだったりしているんです。色に関しては、デザインをしている段階では[illegible]色のイメージをしていますが、細かな配色は考えていません。色指定担当の方とほかのスタッフの皆さんで[illegible]を合わせて決めていきました。

―今回、ダイヤ、ルビー、サファイア、トパーズと、基本となる変身スタイルが4つありました。

元々の宝石の色はもちろんイメージとしてありますが、赤＝[illegible]とか黄＝[illegible]という属性は与えないようにしようと提案されました。それよりも、女の子がかわいいと思ってくれるように。たとえば[illegible]であれば[illegible]ぽく[illegible]という色からイメージするスタイルを取り入れていきました。サファイアであればベースは同じなのですが、[illegible]色やバランスは、ふたりが並んだときにしっくりするように考えましたね。ただ、デザインも色も含めて、ミラクルのほうがガーリーで、マジカルのほうが[illegible]ありました。

「これは[illegible]」[illegible]はマジカルのほうが[illegible]

Cure Miracle

●キュアミラクル・オーディション時ラフ

え、ほぼ色が似合うと思ったからです

[illegible]

[illegible]

たとえばミラクルもマジカルも、ルビーのときは真っ赤だし、トパーズのときは黄色いし、すごく多いですよね

[illegible]

それは考えましたね。ルビーであれば情熱的であったり、サファイアは知性的な雰囲気であったり。細かな色設定についての説明は、わりとこだわりましたね。サファイアのときは、ミラクルが昼の明るい海の色で、マジカルは夜の星空みたいな色、とか

[illegible]

トパーズスタイルは[illegible]で曲円[illegible]イメージという感じだったので、最初の段階では天秤に採用されたスイーツを使ったデザインのほうに[illegible]が付いているものも考えたんですよ。でもスイーツのほうがかわいくてあるモチーフが多かったので、結果的に採用されたデザインになりました

[illegible]

ミラクルとマジカルが決定した状態からのスタートですから、ふんわりやってしないことをやりたいなと考えました。大きな編みであったり、おでこを出していたりするのが違うところですね。フェリーチェはエメラルドの石を使って登場するので、全体の色の緑を使ってほしいというオーダーが玩具の提案としてありました。スカートの形も、玩具より

の提案ですね。でも、フェリーチェの緑はかなり挑戦的な色だなと思いました

[illegible]

[illegible]

これは内藤プロデューサーからの要望です。魔法つかいであるからには、やはり帽子を白くしたほうがいいだろうということになって、羽はマントのデザインはただかわいいかなと思って。実それから、ミラクルの左足とマジカルの右足に赤いラインが結ばれてますが、これはふたりの足をつないでなげてるんです。ただ、子どもたちがマネをすると危険だろうということで、つなげるのはやめました。その設定の名残ですね

[illegible]

フェリーチェは、じつはマザー・ラパーパの力を受け継ぐという存在なので、それをイメージしました。すごい存在なんだよ、というのが衣装からもわかってもらえたらうれしいです

[illegible]

そうですね。肉球のハートや白のなかにある緑はすでに決まっていたと思います。私のほうでは、腕と胸像のバランスや、腕の太さ、ボリューム感などを調整したくらいです

最初のキャラクターは
コミカルさを残して

[illegible]

みらいとリコは、変身後と同じように自然に見えました。みらいは明るく元気で、髪をアップにしました。それと対比して、リコはロングにしました。リコの前髪を眉毛が出るくらいに短くしたのも、みらいの眉毛が隠れているからですね。は

ちゃんは、かなり早めにデザインをしました。フェリーチェをデザインするよりも、はーちゃんのデザインのほうが先だったんじゃないかな。はーちゃんのポイントは、成長するにつれてお花が増えていくのもはーちゃんらしい部分だと思います。花の妖精だと聞いていたので、最初はモフルンに近いんじゃないかと描いていたんですが、そうしたら鷲尾天プロデューサーから「マスコットじゃないよ」と言われて、結果、人間っぽいデザインになりました。

はーちゃん、妖精らしさは羽や目のなかの花で表現しているのでしょうか。

そうですね。羽はとてもわかりやすいですが、目のなかに花があると、それだけでも人間ではないと思ってもらえるかなと。正直なところを言いますと、ヨチヨチ期のはーちゃんは最後に出ていなかっただけですごくたくさんデザインをしたんです。だから、ヨチヨチ期は、もうかなりたくさんやって

はいかった気持ちもあります（笑）。

多かったですね。1話かぎりのキャラクターのデザインなどは各話のスタッフのちにお願いすることもあるのですが、世界観の違うふたつの世界の衣装を考えるのは大変でした。

——敵キャラクターのデザインについて……

メインの敵キャラクターはデザインをさせていただき、ヨクバールも1体めは私がデザインしました。

人間っぽくなということだったので不気味な印象は与えられるのですが、東映アニメーションのSDからは「怖くなりすぎないように」というオーダーをいただきました。それを受けて、見下ろしたときにかわいく感じられるようにしました。ものですけど、ドクロクシーはベースがドクロということもあって、どう頑張っても怖くなってしまうのですが、大半がシートで隠れているのでそのままでいいかなと。

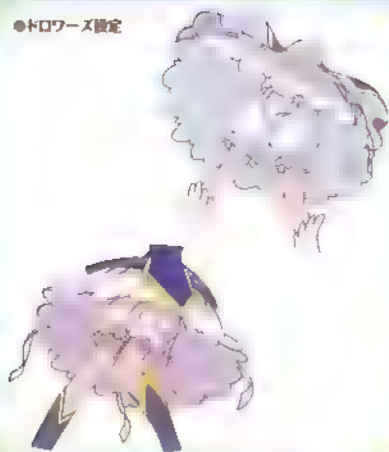
容姿は人間に近くなりましたが、全体的には人間を超えた存在として描くことを心がけました。とはいえやはり化けるは感じはするのかなと思います。

内藤プロデューサーから「ラストに出る敵なのでイケメンにしてほしい」と頼まれたような記憶があります。オルーバは人間を見下すキャラクターだけど人間に興味があるので、人間っぽくしたり、メガネをかけさせたりしました。見す

●キュアマジカル：
オーディション時ラフ

Cure Magical

●校長とクシィの学生時代


●ドロワーズ設定

ると友好的なようで、じつは一番ひどいやつなんですよね。

――ヘソ出しだったり、46話では上半身の肉体美を見せたりと、インパクトも……。

[illegible]

ヘソ出しは、描いてみて確認したらOKだったので、そのままいかせていただきました。上半身裸もそうだったかな。実際にオンエアで観てみると、敵キャラクターは入れ替わりが激しくて、デザインを考えている時間のほうがTVでオンエアされている時間より長いなぁと、しみじみしてしまいました（笑）。

――イケメンといえば、ドクロクシー……

[illegible]

先にドクロクシーのキャラクターができていて、物語が進んだところで登場することになったので、ドクロクシーをベースに人間のほうのキャラクターを作りました。設定に関しては、校長先生の[illegible]だからということで、校長先生との対比を意識しましたね。

――4話で登場した、学生時代の校長先生と[illegible]のデザインも[illegible]

じつは[illegible]スタッフと相談したんですよ。当初、魔法学校の生徒は、1つの学級生の女の子たちしか出てこなかったのですが、どこかで男子が映る可能性もあるから考えておいてほしいと言われていて、モブキャラであれば各話のスタッフの方にお任せすればいいのですが、万が一、校長先生たちの回想が出てきた場合に、モブ用をベースにすると[illegible]かもしれないと考えて、自分で考えました。校長先生のほうが[illegible]なのは、性格的にそちらのほうが合っているかなと思ったからです。

子どもたちがマネできる髪形に

――「プリキュア」シリーズも『魔法つかいプリキュア！』で13作目です[illegible]

[illegible]

気にしました。これまで数多くのキャラクターが登場しているので、難しくはありました。そこでどうしたかといえば、過去のデザインを気にかけつつも、とにかく子どもたちがかわいいと思えるものにしようと思って、髪形なども、ここは子どもたちがマネできることを前提に考えるようにしました。

――[illegible]

「すごいなあ」のひと言です。ちゃんとキャラクター設定にあわせてCGが成り立つんだなと。でも、CGになることを前提にキャラクターを考えてはいません。

――そういえば、[illegible]

あれは、CG制作チームから動かすにあたってスカートのなかの設定がほしいと言われて描いたものです。2Dだと設定がないものは描かなくてもいい方法を考えられるのですが、3DCGでは見えないところもないと困るんだそうです。

――[illegible]

どのスタイルも個性があって好きですが、アレキサンドライトスタイルは、フェ[illegible]チェとふたりとの対比もあって面白い感じに仕上がったと思います。お姫様っぽさと、騎士っぽさの両方を感じさせるデザインができたなと感じています。いろいろな衣装をデザインしましたが、細かく修正して欲しいというオーダーがなかったのはありがたかったです。

――最後に、1年間応援してくれたファンに向けて、メッセージをお願いします。

1年間観続けていただいて、感謝の気持ちです。それぞれのキャラクターに感情移入してもらって、また[illegible]たりしてもらえたら、作った側としてもうれしいです。応援ありがとうございました。

それぞれのキャラクターに感情移入して [illegible]

各話スタッフリスト

第1話

第2話

エド マーチン クリストモ
ユーシン アイノン デニス カブラオ
ポール ケルティパー シュティ ゼル バルトラン
ーザー テレオノ アレン シトラルディーノ
フェイ Toei Phils ネリット アワーニャ
フランシス カネダ

第3話

デジタルアーティスト

第4話

Toei Phils エルウィン サテーア

第5話

第6話

第7話

ノエル アンニョヌエボ ジョーイ カラ ギアン
デジタルアーティスト

Toei Phils ネリット アワーニャ
CGディレクター デジタルアーティスト

第17話

ユーシン アイノン
デニス カブラオ ノエル アンニョヌエボ
ジョーイ カラノギアン レジー マナバット
Toei Phils

第18話

第19話

エルウィン サテーア CGディレクター
デジタルアーティスト

第20話

第21話

CGディレクター デジタルアーティスト

第22話

第23話

デザインオフィス メカマ
CGディレクター
デジタルアーティスト

第24話

第8話

ロメオ アンニョヌエボ デニス カブラオ ポール ケルティパー
エド マーチン クリストモ ユーシン アイノン
マ ピンメンドー セレスティ ロケ フランクリン タマング
フレデリック クラング ロメル ブーラ
CGディレクター
デジタルアーティスト

第9話

ュティ ゼル バルトラン ポピー デラペ ニャ
レジー マナバット マ ピンメンドー
ロメル ブーラ アルフレッド レイエス ブリッツ ワランブ
エド マ チン クリストモ デザインオフィス メカマン
フランシス カネダ

第10話

第11話

Toei Phils
CGディレクター デジタルアーティスト

第12話

CGディレクター デジタルアーティスト

第13話

Toei Phils

第14話

第15話

第16話

第43話

第44話

第45話

第46話

第47話

第48話

第49話

第50話

第34話

第35話

第36話

第37話

第38話

第39話

第40話

第41話

第42話

第25話

第26話

第27話

第28話

第29話

第30話

第31話

第32話

第33話

Gakken Mook

魔法つかいプリキュア! オフィシャルコンプリートブック

MAHO GIRLS PRECURE!

2017年4月1日　第1刷発行

発 行 人　[illegible]
編 集 人　[illegible]
企画編集　[illegible]
発 行 所　株式会社 学研プラス
〒141-8415　東京都品川区西五反田2-11-8
印 刷 所　凸版印刷株式会社

編　　集　[illegible]

編集・執筆　[illegible](アイプランニング)
[illegible](アイプランニング)
[illegible]

デザイン　[illegible](CUIR WORKS)
[illegible](CUIR WORKS)

撮　　影　[illegible]

カバー＆表紙イラスト
原画／宮本絵美子

制作協力　東映アニメーション株式会社
東映株式会社

Staff プロデューサー／[illegible](ABC)、[illegible](ADK)、内藤圭祐
シリーズディレクター／三塚雅人　シリーズ構成／村山功　音楽／高木洋
製作担当／[illegible]　美術デザイン／[illegible]　色彩設計／[illegible]
キャラクターデザイン／宮本絵美子
Cast キュアミラクル・朝日奈みらい／高橋李依
キュアマジカル・十六夜リコ／堀江由衣　モフルン／齋藤彩夏
キュアフェリーチェ・花海ことは／早見沙織　ほか

パッケージ情報

Blu-ray
vol.3まで発売中(全4巻)
vol.4は2017年5月17日発売

●各12話収録(vol.4は14話収録)　●発売元：マーベラス

DVD
vol.12まで発売中(全16巻)
vol.13～14は2017年4月19日、
vol.15～16は2017年5月17日発売

●各3話収録(vol.15・16は各4話収録)　●発売元：マーベラス

ありがとう
ございました

Gakken Mook
魔法つかいプリキュア！
オフィシャルコンプリートブック　電子版

2023年5月　version1.0発行

発行人　村田剛
編集人　村田剛
企画編集　馬渕悠

発行　株式会社 Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8

【お問い合わせ】https://ebook.gakken.jp/contact/（電子出版専用）

学研グループの書籍·雑誌についての新刊情報·詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト https://hon.gakken.jp/

※本商品に記載している情報は、紙版の発売当時のものです。
※キャストページなど、一部のページで紙版と異なる写真を使用しています。